

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業264社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：165社（62.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－主要3項目DIはプラスであるものの低水準、約半数の企業で従業員不足－

前年同期（2024年1月～3月）と比べた今期（2025年1月～3月）の状況

今期と比べた来期（2025年4月～6月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは7.5で、前年同期比で9.1ポイント低下しました。主要3項目の業況DIは11期連続、売上DIは12期連続、採算DIは2期連続、いずれもプラス水準で推移しましたが、ほぼ全ての業種における経営上の問題点の上位3位までが、「材料・仕入価格上昇」、「人件費増加」、「従業員確保難」となっており、回答企業の46.7%で従業員が不足しています。

来期は、業況DI、売上DIで上昇、採算DIで低下が予想されています。また、従業員数は増加すると回答した企業が増えました。

製造業の業況DIは前年同期比で30.9ポイントの大幅な低下により▲16.7となりました。売上単価DIは11.1ポイント上昇しましたが、仕入単価DIも15.7ポイント上昇しており、採算DIは34ポイントの大幅な低下により▲22.9とマイナスに転じました。

卸売業の業況DIは9.1ポイント低下し0となりました。仕入単価DIは2.4ポイント上昇しましたが、売上単価DIも5.5ポイント上昇しており、採算DIは5.3ポイント上昇して5.3となりました。

小売業の業況DIは7.8ポイント低下して15.0となりました。客数DIは9.1ポイント低下しましたが、客単価DIが13.6ポイント上昇、仕入単価DIは3.2ポイント低下しており、採算DIは15.5ポイントの上昇により20.0となりました。

運輸・倉庫業の業況DIは51.3ポイントの大幅な上昇により31.3とプラスに転じました。運賃・運送料DI、保管料単価DIはともに低下しましたが、入庫DI、出庫DI、保管残高DIがそれぞれ大幅に上昇しており、採算DIは96.7ポイントの大幅な上昇により50.0とプラスに転じました。

観光業の業況DIは4.5ポイント上昇し51.4となりました。利用客数DIは23.6ポイント上昇しましたが、客単価DIが9.1ポイント低下し、仕入単価DIも4.8ポイント上昇しており、採算DIは15.3ポイント低下により31.4となりました。

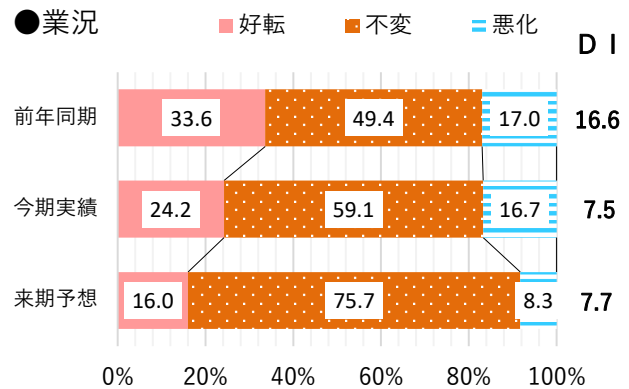
サービス業の業況DIは39.2ポイントの大幅な低下で0となりました。仕入単価DIは8.5ポイント低下しましたが、客単価DIが13.4ポイント、利用客数DIが29.6ポイントそれぞれ低下しており、採算DIは24.2ポイント低下により▲11.1とマイナスに転じました。

建設業の業況DIは33.1ポイントの大幅な低下により▲28.5とマイナスに転じました。受注額DIは3.9ポイント上昇し、材料仕入単価DIも1.6ポイント低下しましたが、契約残DIは8.1ポイント低下しており、採算DIは11.1ポイント低下しの28.5となりました。従業員不足を挙げた企業が66.7%と7

業況、売上、採算

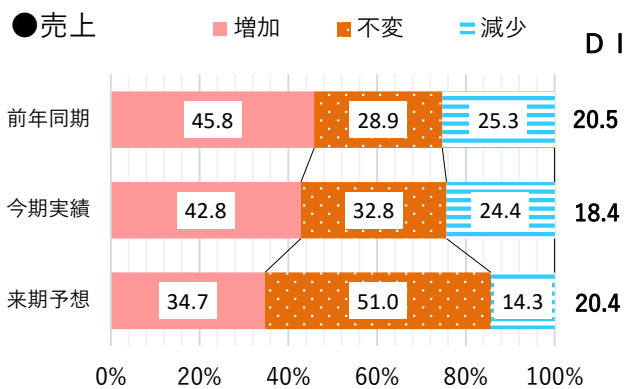
今期（2025.1～3）の業況判断DIは7.5で、前年同期（2024.1～3）と比べ9.1ポイント低下しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは0.2ポイントの上昇で、ほぼ横ばいで推移すると予想しています。



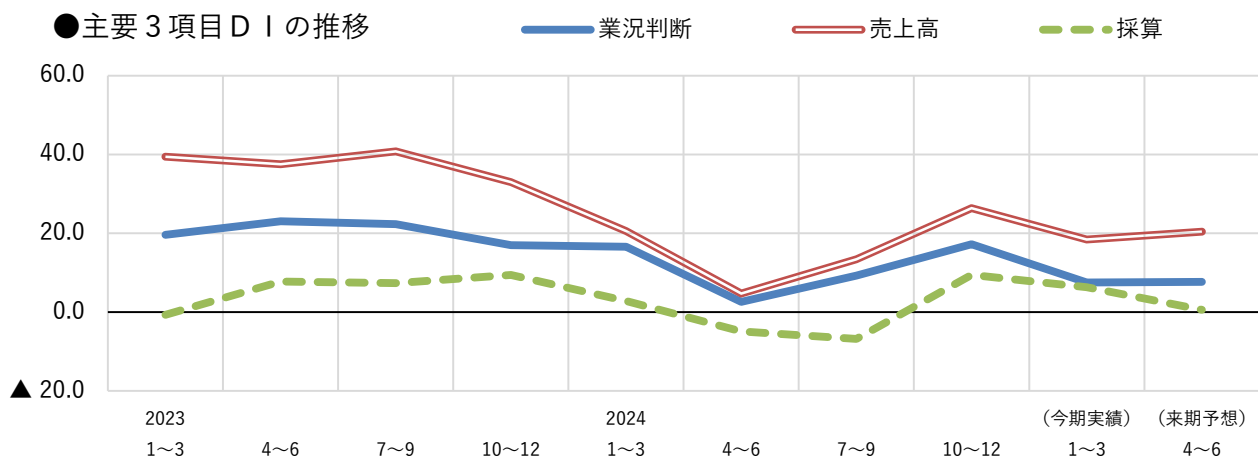
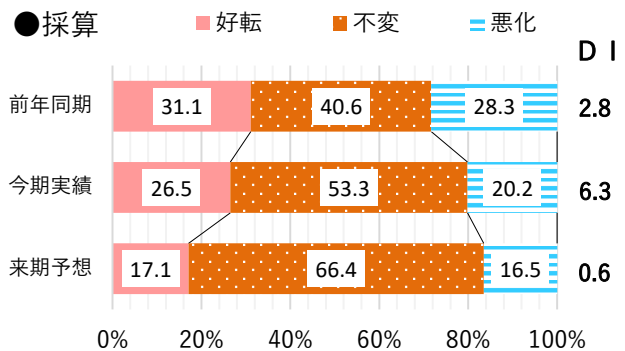
今期の売上DIは18.4で、前年同期と比べ2.1ポイント低下しました。

来期の売上DIは2.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは6.3で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

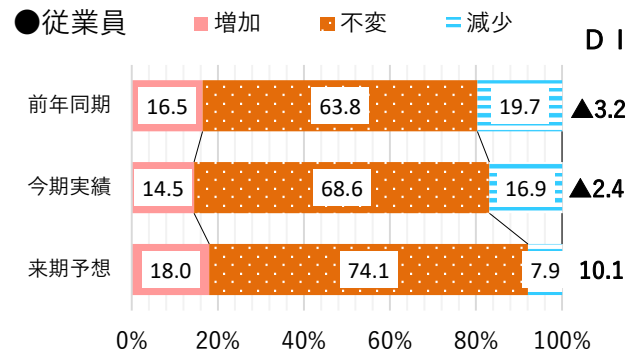
来期の採算DIは5.7ポイント低下すると予想しています。



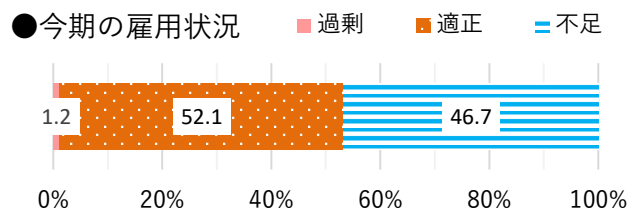
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲2.4で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは12.5ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.2%、適正であると回答した企業の割合は52.1%、不足していると回答した企業の割合は46.7%でした。



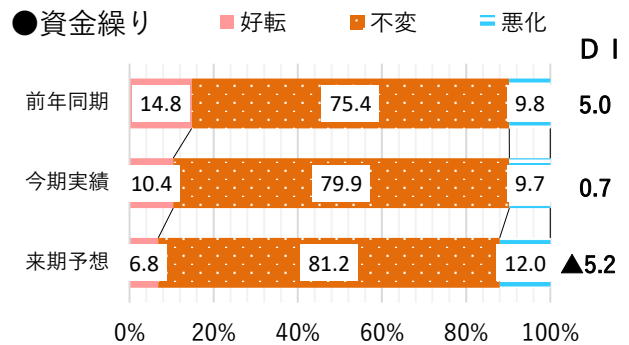
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、43.6%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	11
	不足	14
不変だった	過剰	0
	適正	72
	不足	40
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	23

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは0.7で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

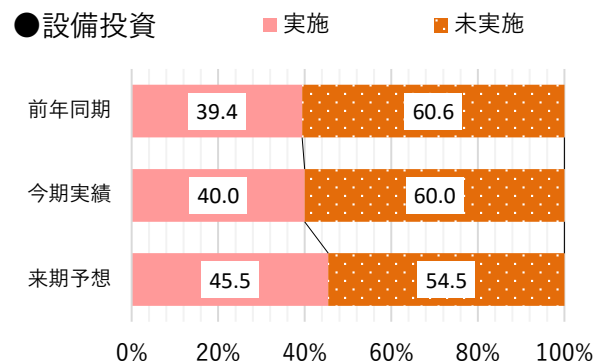
来期の資金繰りDIは5.9ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



今期の設備投資は、40.0%が実施と回答し、前年同期と比べ0.6%上昇しました。

投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「生産設備」、3位が「OA機器」の順です。

来期は45.5%が設備投資を計画していると回答しています。



製造業

業況、売上、採算

今期（2025.1～3）の業況判断DIは▲16.7で、前年同期（2024.1～3）と比べ30.9ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

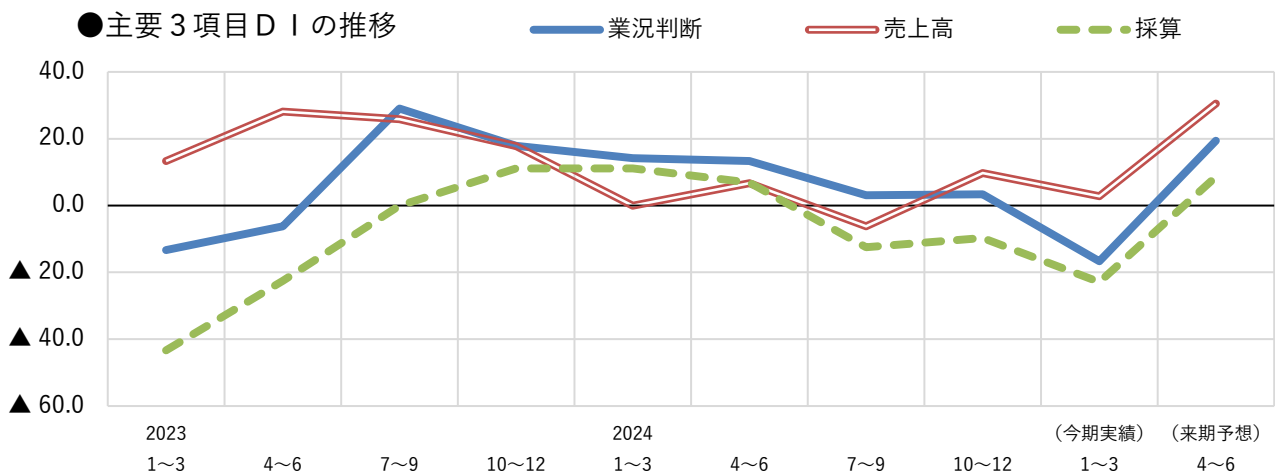
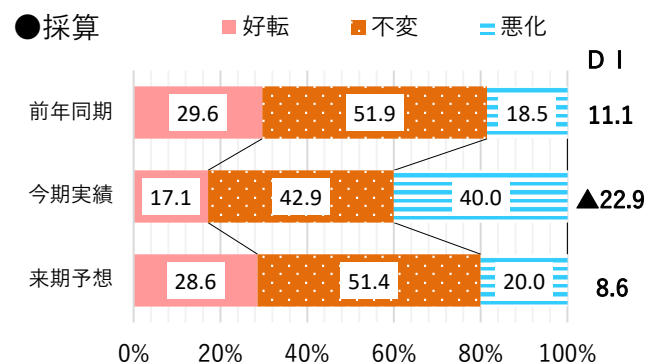
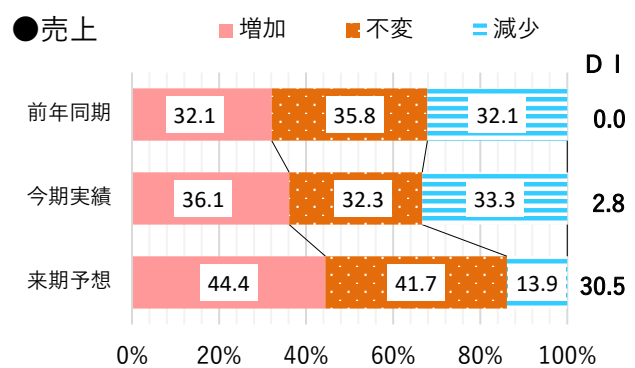
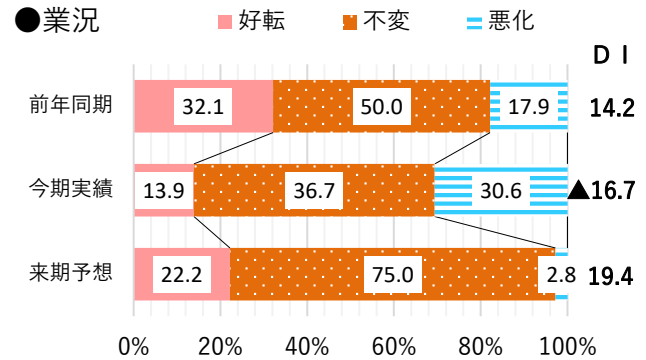
来期（2025.4～6）の業況DIは36.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。

今期の売上DIは2.8で、前年同期と比べ2.8ポイント上昇しました。

来期の売上DIは27.7ポイント上昇すると予想しています。

今期の採算DIは▲22.9で、前年同期と比べ34.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

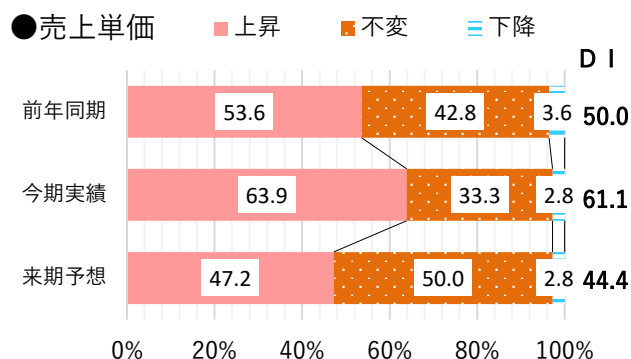
来期の採算DIは31.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

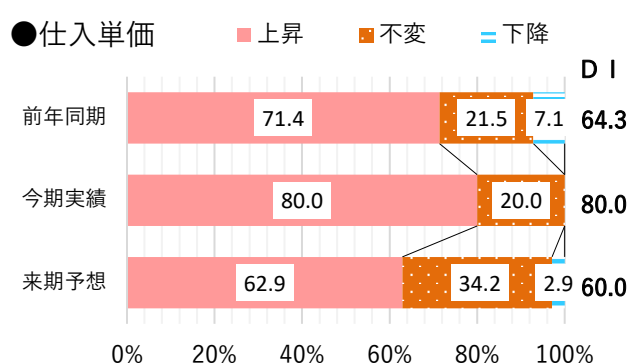
今期の売上単価DIは61.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期の売上単価DIは16.7ポイント低下すると予想しています。



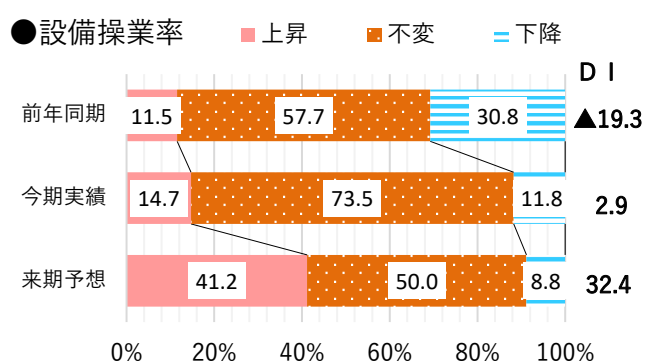
今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ15.7ポイント上昇しました。

来期の仕入単価DIは20.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは2.9で、前年同期と比べ22.2ポイント増加し、プラスに転じました。

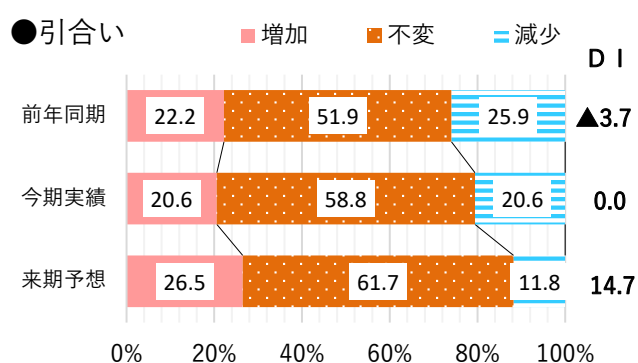
来期の設備操業率DIは29.5ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ3.7ポイント増加しました。

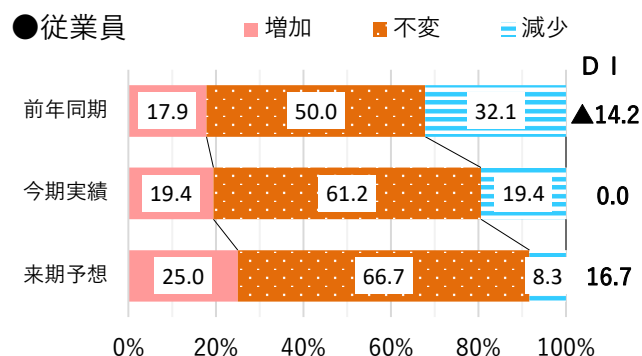
来期の引合いDIは14.7ポイント上昇すると予想しています。



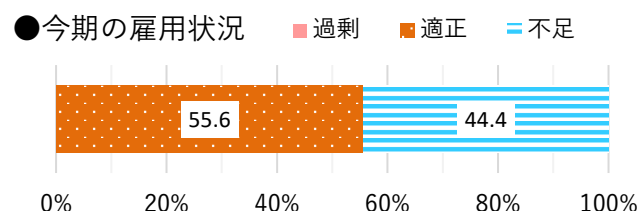
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは16.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は55.6%、不足していると回答した企業の割合は44.4%でした。



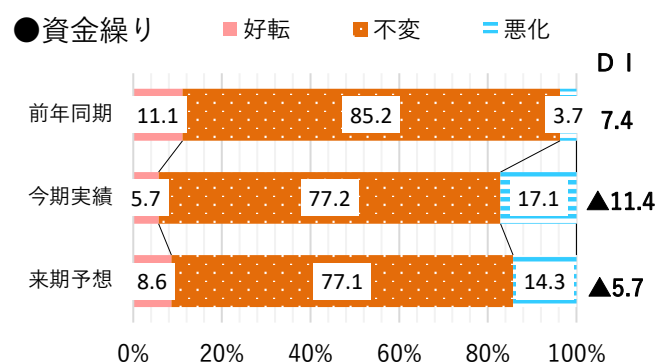
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、41.7%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

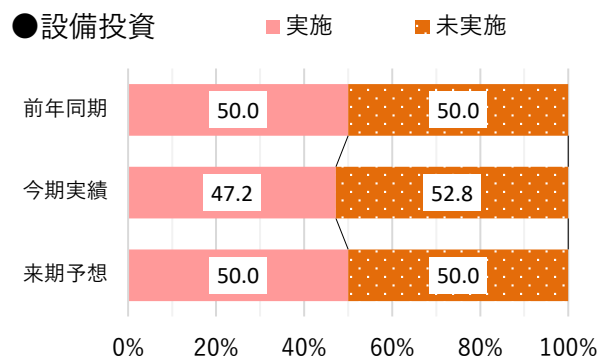
今期の資金繰りDIは▲11.4で、前年同期と比べ18.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の資金繰りDIは5.7ポイント上昇しますが、引き続きマイナス水準と予想しています。



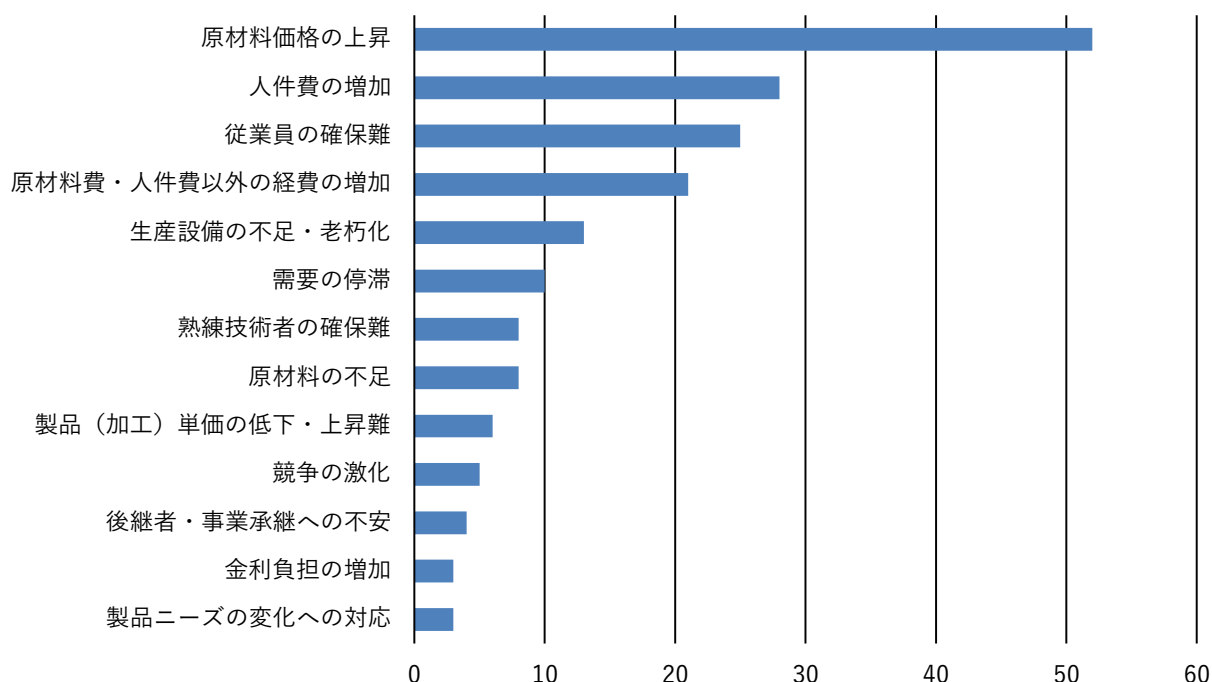
今期の設備投資は47.2%が実施と回答し、前年同期と比べ2.8%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期は50.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 自社の価格改定の実施、米、野菜、エネルギー関連の価格上昇、政治の不安定性、将来に対する漠然とした不安感等の複合的な影響で末端の消費意欲が減退していると思われる。（食料品）
- インバウンド向けの需要はやや旺盛となっているが国内旅行客向けの需要は減少している。東アジア向け輸出も通常運転に近い状況ではあるが伸びは感じられない。（食料品）
- 原料原産地（オーストラリア・ニュージーランド）の天候・中東の引合いの強さ等により、羊肉原料が1年前に比べて高値が続いており動きが鈍い。（食料品）
- 前年はコロナ禍が明けて、巣ごもり需要が減り売り上げ面で苦戦したが今期は少し持ち直した。（食料品）
- 老朽化による機械の不良で交換、入替が多かったが、増産により機械の購入が増えた。（食料品）
- 売上高の伸びなし。仕入価格、人件費、経費等が増加した。（食料品）

- 仕入価格が上昇していたが小売価格に反映できずにいた。（食料品）
- 生産（受注）は安定している。（食料品）
- 3月は若干持ち直したが、1～2月は非常に悪かった。売上減で仕入はメーカーからの納品が前倒しであり、在庫増、資金を圧迫した。（金属製品）
- 大型案件のほぼすべてにおいて着工時期遅れが発生しており、当初計画通りにことが進まない。結果、売上計上額に大きく影響した。（金属製品）
- 冬の時期は受注量が減るが、今期は通常通りの稼働があった。（金属製品）
- 原材料仕入れ価格は5%以上上昇、更に電力料金、物流費が上昇し、製品値上げを昨年春から交渉開始し現時点では交渉したほぼ全社が決着。但し人件費上昇分まで値上ができたとは言えないが、一旦値上交渉は終了する。人材確保・人材流出防止目的で賃上げ実施。今年度は4%の賃上げ実施、最低賃金には対応済。（プラスチック）
- 原材料、電力料、運賃の値上と人員確保のための人件費増分の価格転嫁を行う。消費者の節約志向が高まっており、売上額は前年並みだが出荷量は落ちている。（プラスチック）
- 売上単価は上昇するも、設計単価アップによる需要量減少。原材料の仕入れ単価は引き続き上昇の一途。従業員不足賃金見直しによる効果なし。（プラスチック）
- 売上は増加したが、各資材（原料）価格等高騰により採算は悪化した。（紙製品）
- 受注状況に対し、人手（労働力）不足である。（衣服）
- 売上および利益において、特に変化は無い。昨年10月～12月期と同様に、安全靴は伸びているものの、工業用品関係の引合いおよび販売額が減少している。（ゴム製品）
- 雇用状況は適正であり、最低賃金の動向を見極め、給与水準を検討していく。（ゴム製品）
- 官公署向けの売上が多かった。材料費の高騰が続いている。従業員不足はタイミーを活用した。
(その他繊維製品)

[来期の業況について]

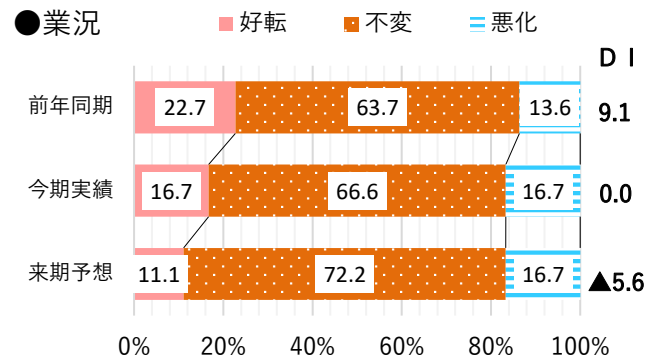
- 自社の価格改定によりどれだけ仕入れ価格、諸経費、人件費の上昇を補えるかどうか、賃上げにより消費意欲が回復するのか、先行きが見通せない。（食料品）
- 売上高は減少見込み、原材料等の製造原価の増加、人件費等の増加により減益が見込まれる。（食料品）
- 小売価格のアップを計画中。（食料品）
- 国内量販店向けの新規開拓を行っているので需要の伸びを期待している。（食料品）
- 4～9月は毎年焼肉シーズンなので、悪いながらも売上は見込める。（食料品）
- 今期同様、増産による機械購入及び人員確保が必要となる。（食料品）
- 来期は季節要因もあり売上は減少見込み。（食料品）
- 原材料費は高騰しているので値上げを行う。（食料品）
- 来期の利益は微増を見込んでいる。（飲料）
- 来期の工事受注済みなので、問題は無いが、人材確保の問題があり、ハローワークに求人募集をかけても、面接すらしてもらえないのが現状で、苦勞している。（金属製品）
- 大型案件が遅れながらも動き出してきており、やや明るい見通しにはある。原材料価格（鋼材価格）はしばらく上昇傾向が続いたが、ここにきてやや落ち着いている。（金属製品）
- 若干需要増の見込、引合いも増加傾向である。（金属製品）
- 製品値上げが今期で完了し、併せて新規需要開拓もできており、来期は増収を予想する。仕入価格は微増と予想。来期は5%の賃上げ実施予定。（プラスチック）
- 事業安定の為、前年度並みの賃上げと省人化に向けての設備投資を行う。それに伴い借入金利上昇から支払利息は増加する。（プラスチック）
- 値上げをしたので、売上は増加見込である。賃上げや従業員数増のため経費は上昇見込である。（紙製品）
- 受注量増大に対し、労働力不足である。（衣服）
- 官公署向けの受注は多いが、資材の入荷次第では作業が後半にずれ、外注費、人件費の増加の可能性が大きい。材料費の高騰、特に防災加工用の薬材がほぼ中国からの輸入のため影響が大きい。
(その他繊維製品)

卸 売 業

業況、売上、採算

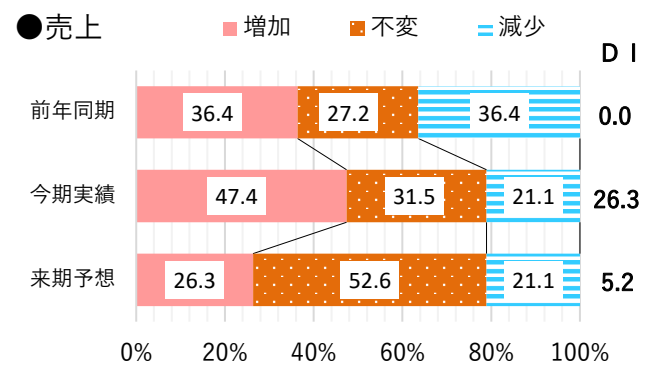
今期（2025.1～3）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2024.1～3）と比べ9.1ポイント低下しました。

来期（2025.4～6）業況DIは5.6ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



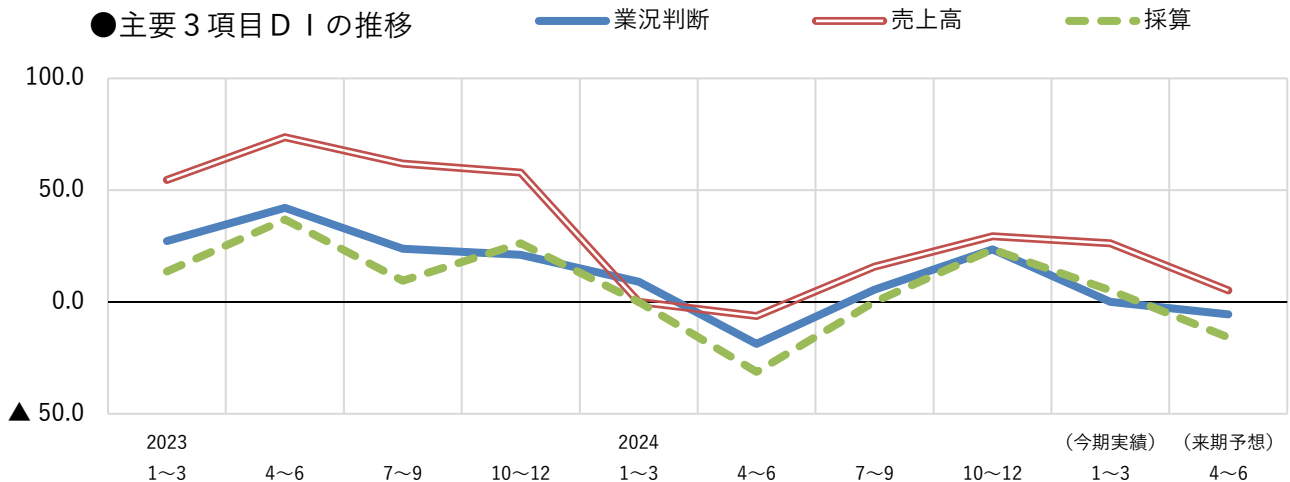
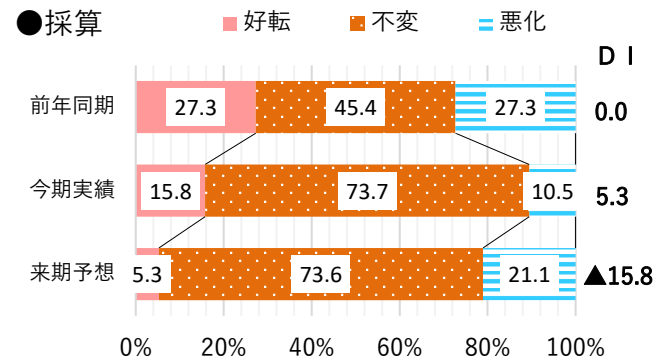
今期の売上DIは26.3で、前年同期と比べ26.3ポイント増加しました。

来期の売上DIは21.1ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは5.3で、前年同期と比べ5.3ポイント増加しました。

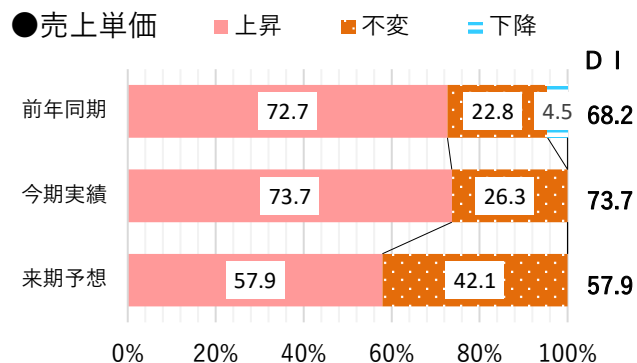
来期の採算DIは21.1ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



売上単価、商品仕入単価

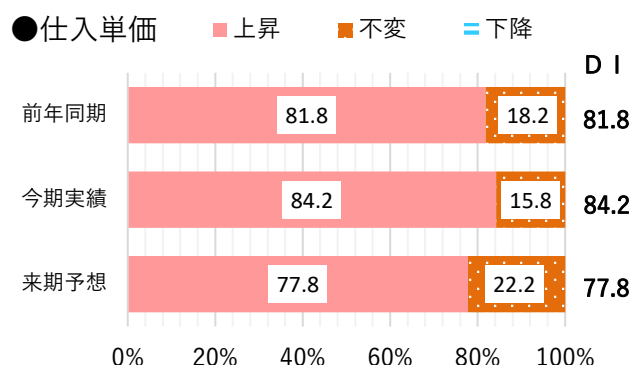
今期の売上単価DIは73.7で、前年同期と比べ5.5ポイント増加しました。

来期の売上単価DIは15.8ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは84.2で、前年同期と比べ2.4ポイント上昇しました。

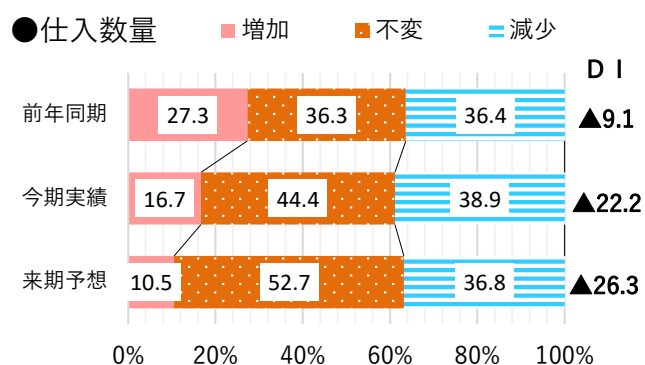
来期の仕入単価DIは6.4ポイント低下すると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

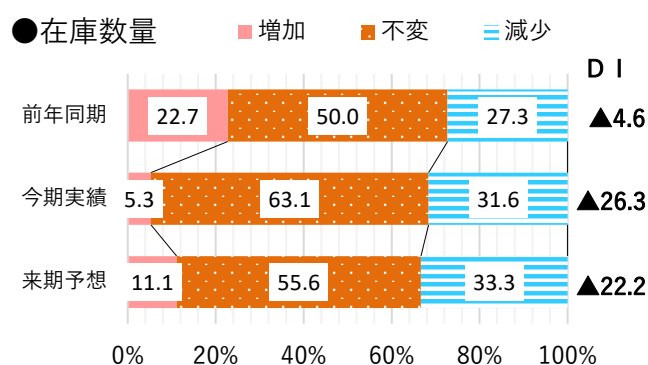
今期の仕入数量DIは▲22.2で、前年同期と比べ13.1ポイント低下しました。

来期の仕入数量DIは4.1ポイント低下し、マイナス水準が継続すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲26.3で、前年同期と比べ21.7ポイント低下しました。

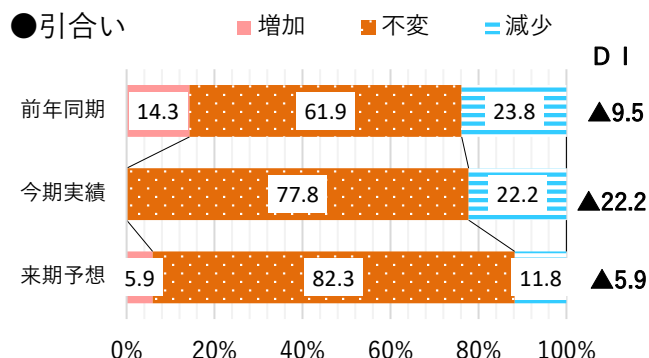
来期の在庫数量DIは4.1ポイント上昇しますが、マイナス水準が継続すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲22.2で、前年同期と比べ12.7ポイント低下しました。

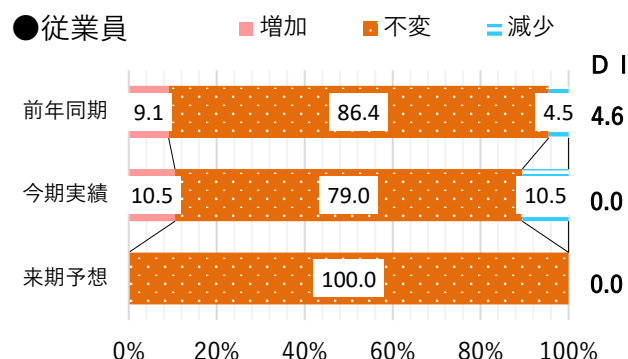
来期の引合いDIは16.3ポイント上昇しましたが、マイナス水準が継続すると予想しています。



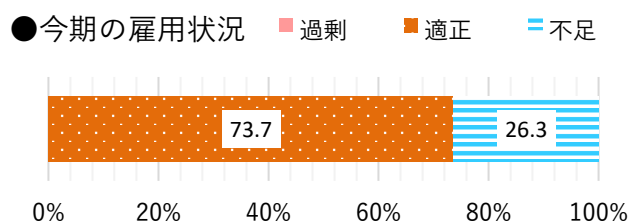
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは0.0で、横ばいに推移すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.7%、不足していると回答した企業の割合は26.3%でした。



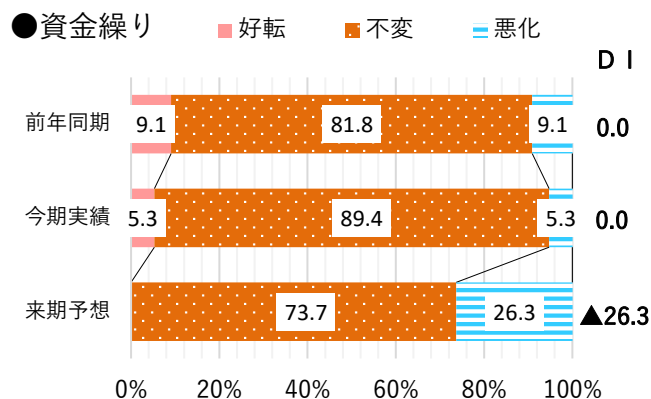
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、68.4%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

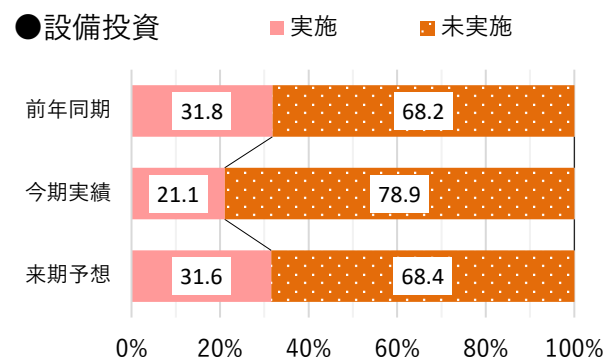
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期の資金繰りDIは26.3ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



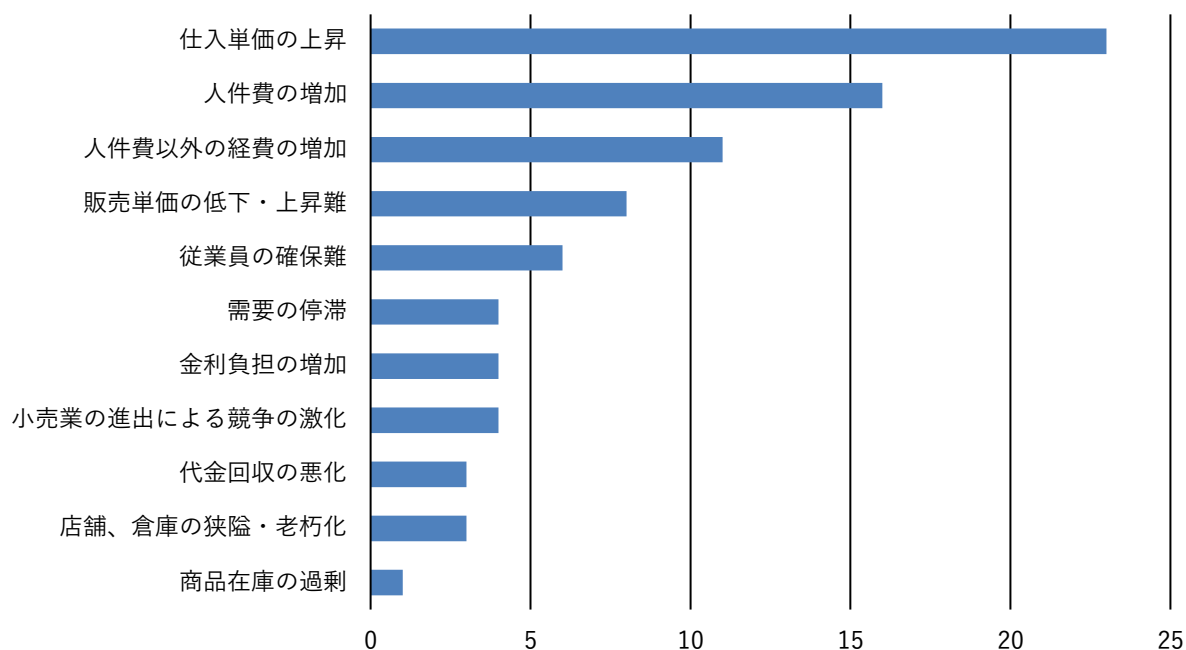
今期の設備投資は21.1%が実施と回答し、前年同期と比べ10.7%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」でした。

来期は31.6%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 数年続く商品の値上がり、海産物の不漁と乾物の高騰で仕入困難な商品が増え販売する商品の入手が厳しい状況が続引き合い、及び注文があっても販売数量を調整しなければ欠品になり、売上も伸ばすことが困難であり、この状況が良くなるとは思えず販売品の目先を変えていかなければならないと考えている。
(食料・飲料)
- 売上増が見込めず、経費増にかかる粗利を考えると、販売価格が高くなり他店との競争に負ける。
(貿易業)
- 燃料、人件費等の上昇が続き、利益を圧迫してきている。仕入価格も上昇するものが増えてきている。
(建築材料)
- 新幹線需要が増加し売上は増加した。途中で1人採用した。(建築材料)
- 今期の排雪、雪の仕事も2月に入り少なく、代わりになる仕事があればと感じている。(自動車部品)
- 仕入単価、経費が上がっており、販売単価に転嫁しきれない。(包装資材)
- 価格は落ち着いたが販売量は低水準のままで利益確保に苦戦している。(鉱物・金属材料卸売)
- 売上高は仕入価格上昇の分増加したが、利益は取れなかった。(石油卸売)

[来期の業況について]

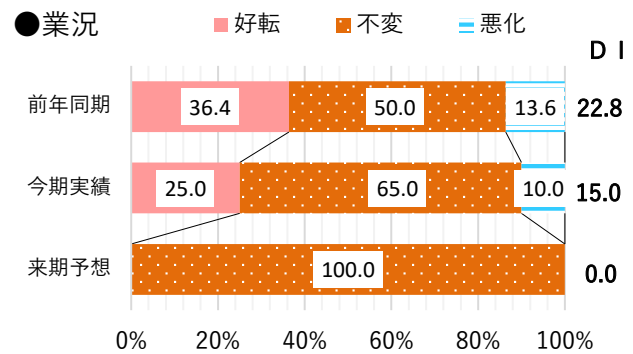
- 来期も同じだと思う。(食料・飲料)
- 燃料、人件費等のコスト分をどう転嫁していくかが課題となる。(建築材料)
- 新幹線需要は引き続きあるが、新規需要ははない。(建築材料)
- 降雪量が少なく、除雪に関わってる業者としては大変だ、現状、稼働が半分位になってしまい今後が心配。
(自動車部品)
- 厳しい状況が続くと思う。(包装資材)
- 人件費・一般経費が上昇する見込みでそれに見合う利益を取れそうもない。(鉱物・金属材料卸売)

小 売 業

業況、売上、採算

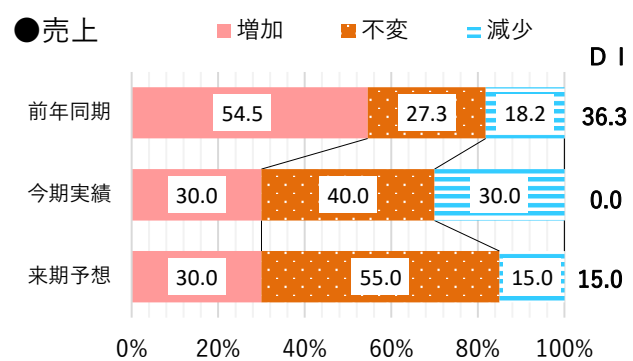
今期（2025.1～3）の業況判断DIは15.0で、前年同期（2024.1～3）と比べ7.8ポイント低下しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは15.0ポイント低下すると予想しています。



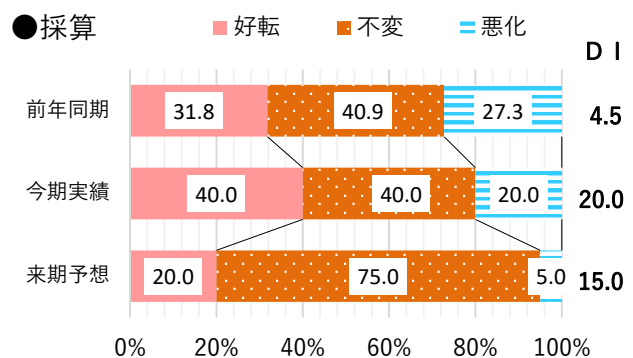
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ36.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは15.0ポイント上昇すると予想しています。

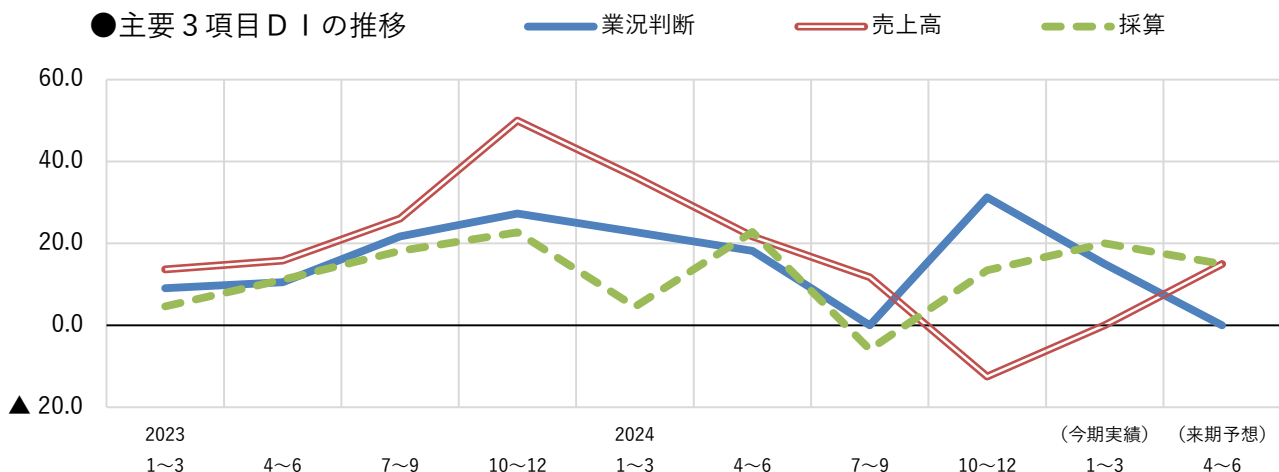


今期の採算DIは20.0で、前年同期と比べ15.5ポイント上昇しました。

来期の採算DIは5.0ポイント低下すると予想しています。



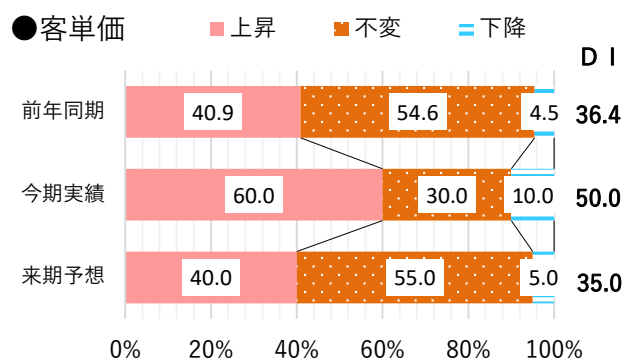
●主要3項目D Iの推移



客単価、客数

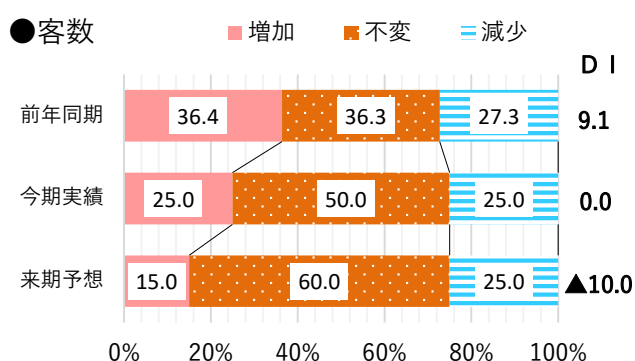
今期の客単価DIは50.0で、前年同期と比べ13.6ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは15.0ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは0.0で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

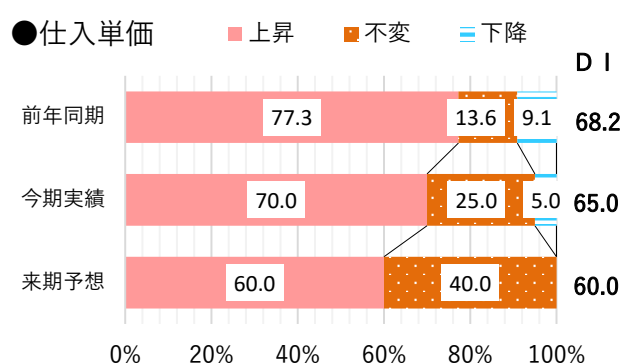
来期の客数DIは10.0ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

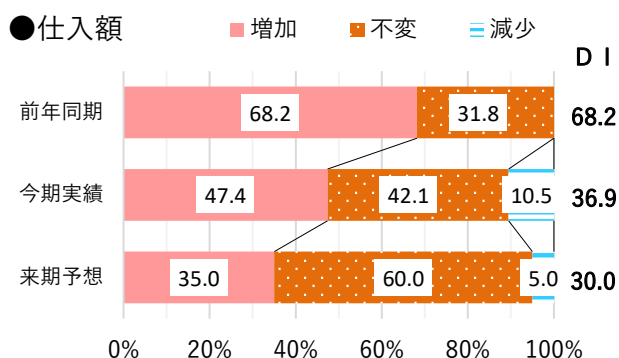
今期の仕入単価DIは65.0で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは5.0ポイント低下すると予想しています。



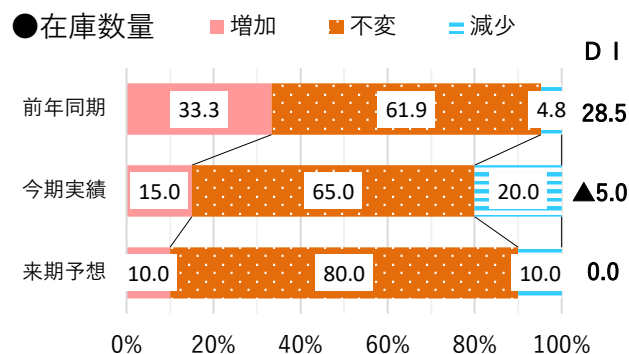
今期の仕入額DIは36.9で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の仕入額DIは6.9ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲5.0で、前年同期と比べ33.5ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

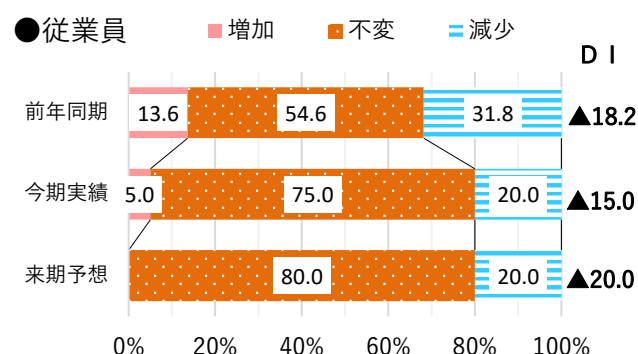
来期の在庫数量DIは5.0ポイント上昇すると予想しています。



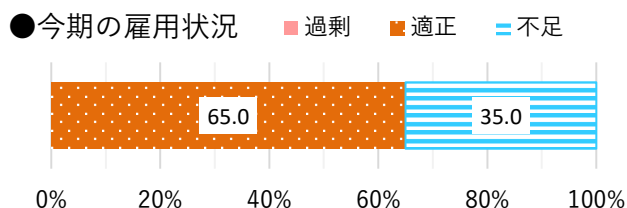
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲15.0で、前年同期と比べ3.2ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは5.0ポイント低下し、マイナス水準が継続すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、自社の従業員数が適正であると回答した企業の割合は65.0%、不足していると回答した企業の割合は35.0%でした。



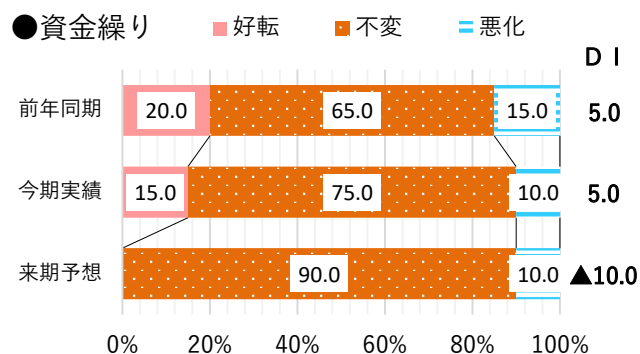
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、55.0%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

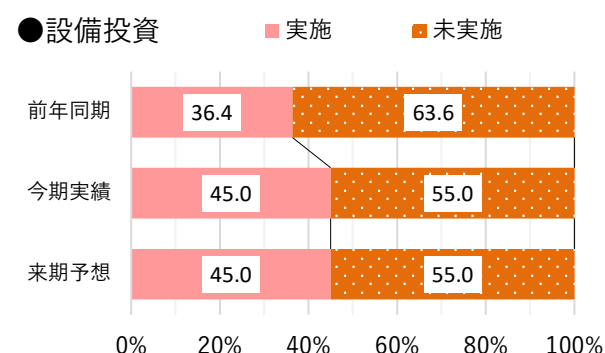
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ、横ばいとなりました。

来期の資金繰りDIは15.0ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



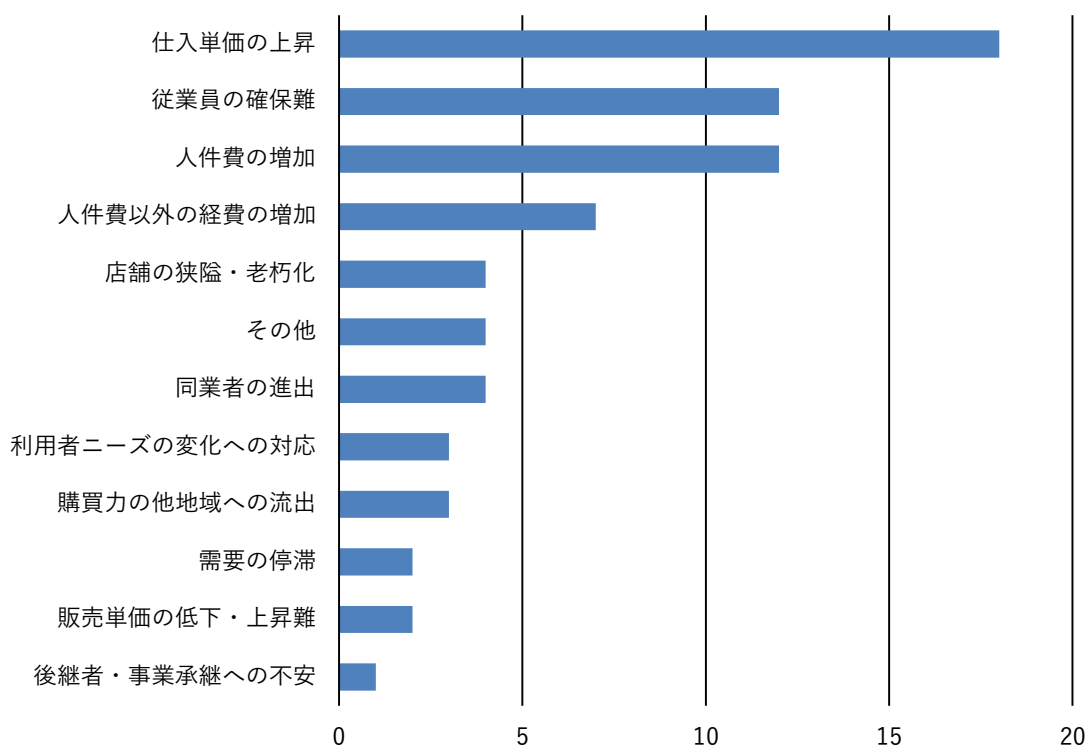
今期の設備投資は45.0%で、前年同期と比べ8.6%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」（同位）でした。

来期は45.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 商品の価格も軒並み上昇しているため、関連するものすべてが上昇。また、北海道の最低賃金も上がっているため当社もそれにならい時給も高くなっている。その中でも客数が若干落ち込んだが、1点単価の上昇により売上の確保が出来ている。(大型店)
 - 値上がりで買い控えが続いている。雇用を増やしたいが人が来ないため、現雇用でやりくりをしている。(大型店)
 - インバウンド客数の増加が好調要因だが、反面日本人の近隣顧客の客数減少が見られる。(大型店)
 - 気温に左右されるエアコンの販売が前期より不調に終わった。(家電量販店)
 - 今期、店を1店舗閉めた結果、利益が上がった。(食肉)
 - ほぼすべての商品を値上げしたが、新規取引先や個人の来店客数も増加している。しかしながら仕入単価も上がっているので収支については棚卸をするまで予断を許さない。(食料品)
 - 今期は、近隣のスーパーへ客が流れたようで売上・客数とも減少した。(コンビニ)
 - 今期は天候が悪いと売上に影響が出た。特に2月は影響が大きかった。原材料、包装資材の値上がりがとまらず仕入れの調整等を行ったが、来期も値上げが多数あり利益の減少に歯止めがかからない。(菓子製造小売)
 - 車両納期の正常化により売上が増加した。レバレート見直しにより客単価が増加した。技能実習生の採用を進めるも日本人の採用は進んでいない。(自動車)
- ※レバレート：自動車整備士1人が作業した場合の1時間あたりの作業単価のこと
- 利用客数が増加し、売上は増加した。(自動車)
 - 来客人数はそんなに変わっていないが、売上が落ちている。客単価の低下が大きな要因の一つだと思われる。(時計・メガネ)
 - 従業員からの賃上げ圧力が強くなってきた。消費税支払時の資金繰りや社会保険の負担が大きい。売上が上がってもほぼ税金で取られる感覚がする。パートは103万円の壁で働き控えている。(花・植木)

[来期の業況について]

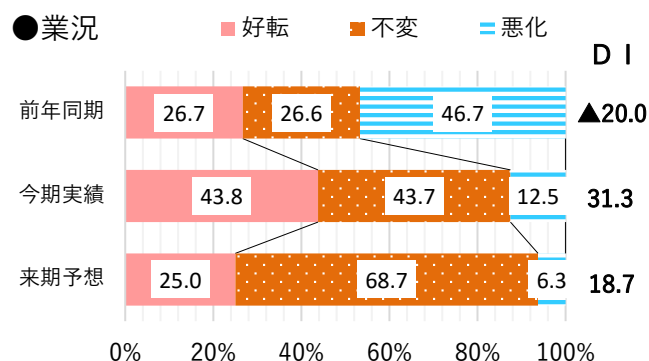
- 2025年度も前年と同様、価格の高騰や最低賃金のアップが見込まれる中、客数アップを第一に考え売上をキープしていく。(大型店)
 - 売上は上がっても様々なコスト上昇に加え人材不足や高齢化が顕著であり、厳しい状況が続いていく。(大型店)
 - 店舗改装、設備強化により売上及び客数増加を見込む。(大型店)
 - 販売単価は上昇が続くと予測するが、仕入れ単価の上昇も不透明で収支は不安だ。来店客数はいつ頭打ちになるか読めない。法人先は今後も増加傾向にあると思われるが、販売できる商材が不足しているのでそのまま売り上げ増加となるかどうかは不明。(食料品)
 - 人口減少に歯止めが掛からず期待できない。(コンビニ)
 - 原材料や包装資材の値上げが落ち着けばこれからの見通しも見えてくるとは思うが今の時点ではなかなか予想するのは難しい。(菓子製造小売)
 - 車両納期の正常化により売上が増加した。レバレート見直しにより客単価が増加した。技能実習生の採用を進めるも日本人の採用は進んでいない。(自動車)
- ※レバレート：自動車整備士1人が作業した場合の1時間あたりの作業単価のこと
- 自社の電池交換や簡単な修理の料金の値上げで、客単価の低下を補いたい。(時計・メガネ)
 - このままの状況が進むと、賃上げや税金負担が益々強くなると思う。負担感が減る方向に向かってほしい。(花・植木)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

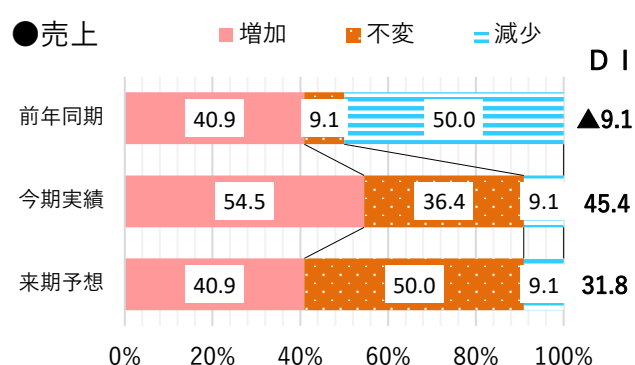
今期（2025.1～3）の業況判断DIは31.3で、前年同期（2024.1～3）と比べ51.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2025.4～6）の業況DIは12.6ポイント低下すると予想しています。



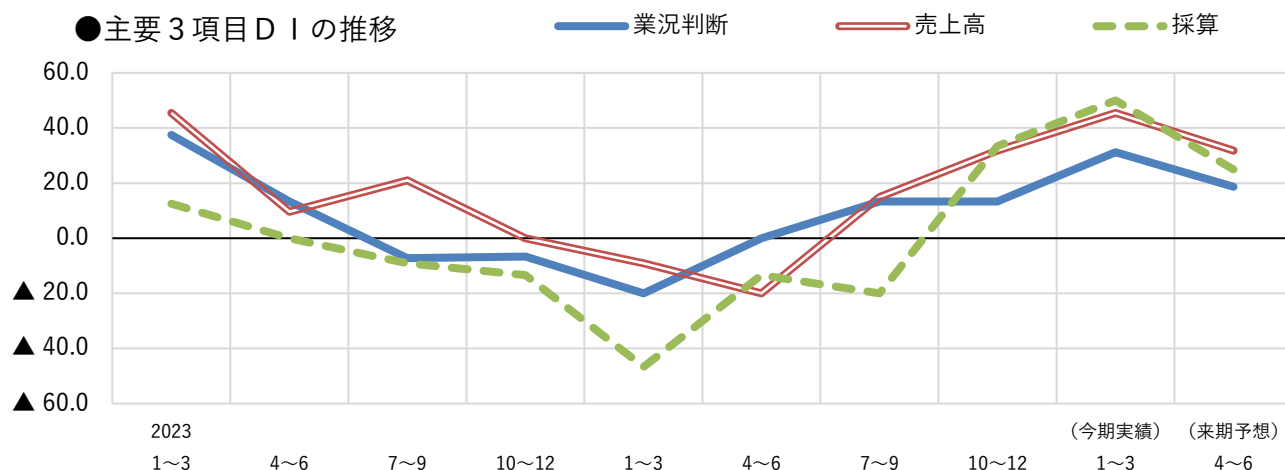
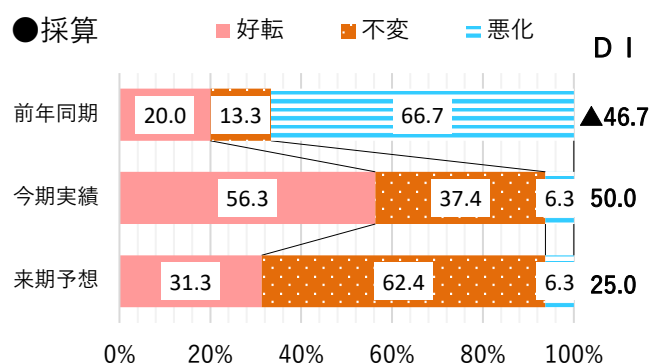
今期の売上高DIは45.4で、前年同期と比べ54.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期の売上DIは13.6ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは50.0で、前年同期と比べ96.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

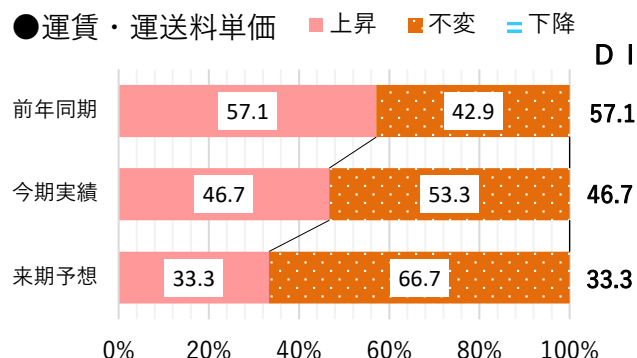
来期の採算DIは25.0ポイント低下すると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

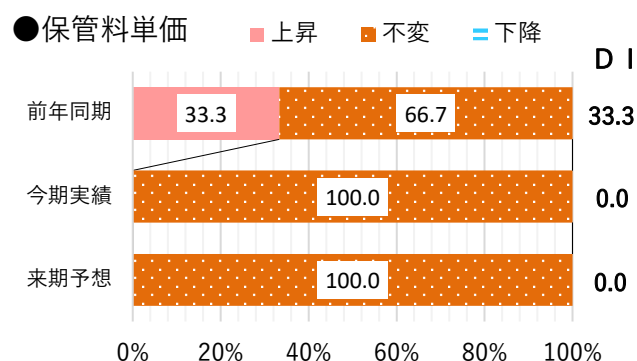
今期の運賃・運送料単価DIは46.7で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは13.4ポイント低下すると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ33.3ポイントと大幅に低下しました。

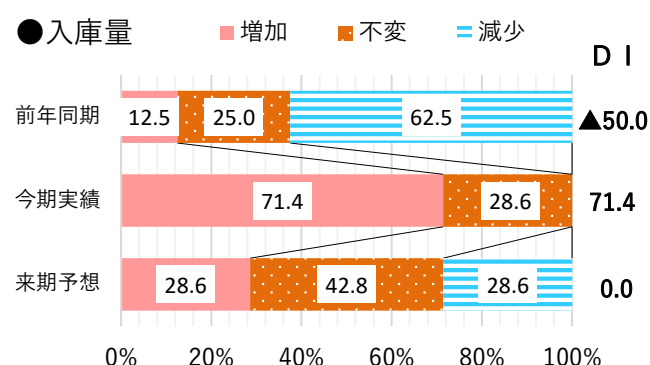
来期の保管料単価DIに変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

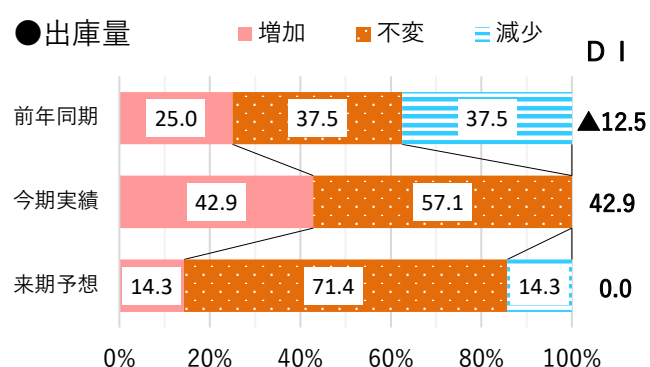
今期の入庫量DIは71.4で、前年同期と比べ121.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期の入庫量DIは71.4ポイントと大幅に低下すると予想しています。



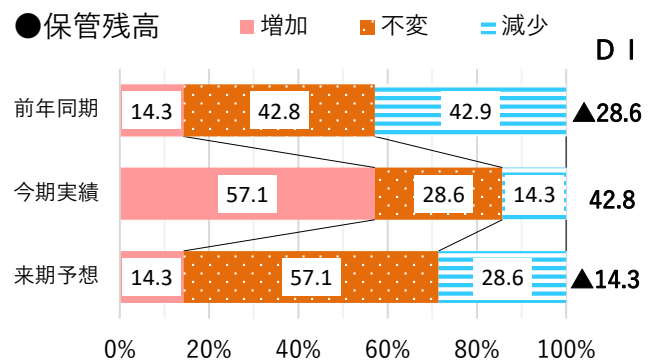
今期の出庫量DIは42.9で、前年同期と比べ55.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期の出庫量DIは42.9ポイントと大幅に低下すると予想しています。



今期の保管残高DIは42.8で、前年同期と比べ71.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

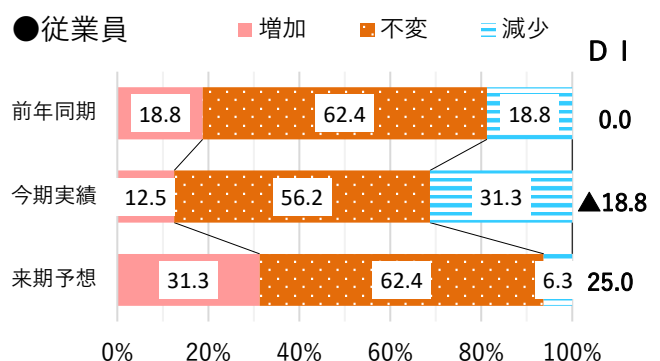
来期はの保管残高DIは57.1ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じると予想しています。



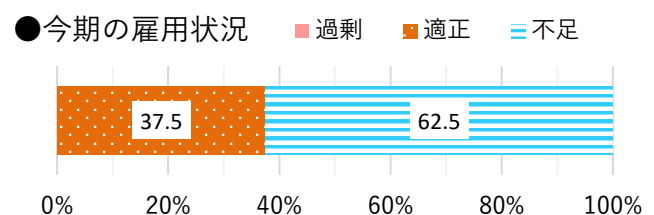
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲18.8で、前年同期と比べ18.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の従業員DIは43.8ポイントと大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は37.5%、不足していると回答した企業の割合は62.5%でした。



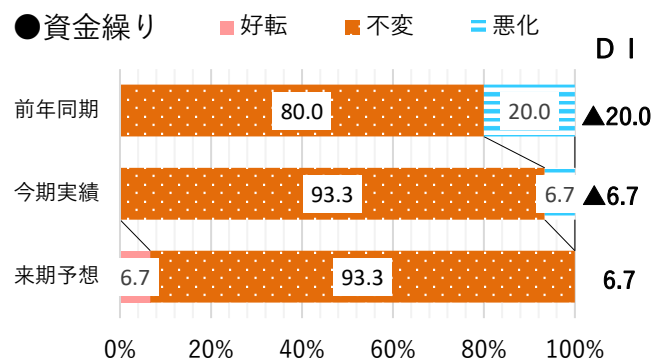
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、それぞれ31.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

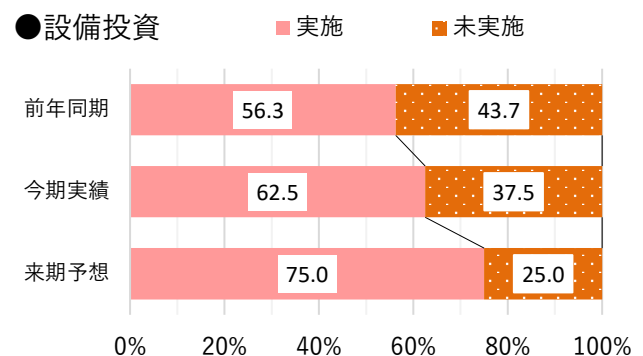
今期の資金繰りDIは▲6.7で、前年同期と比べ13.3ポイント増加しました。

来期の資金繰りDIは13.4ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



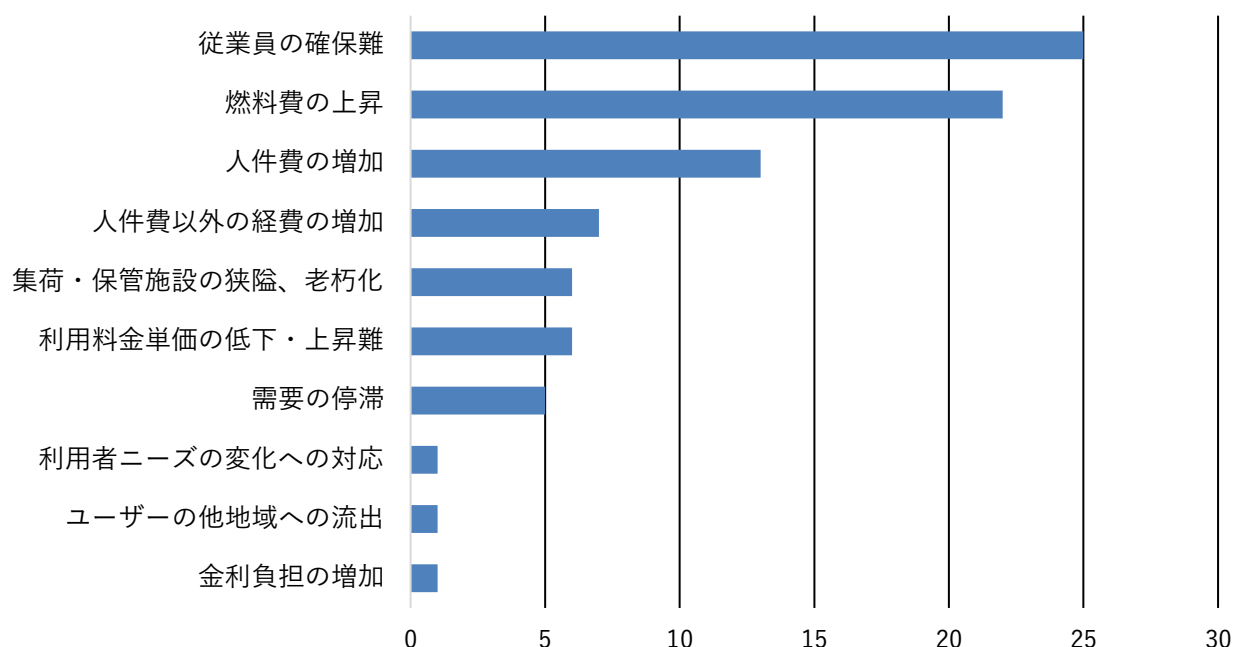
今期の設備投資はを62.5%が実施と回答し、前年同期と比べ6.2%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期は75.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 運賃単価の上昇（企業物価の上昇により利益確保は厳しい）。（道路旅客運送）
- 人材確保、燃料費の高騰に苦勞している。（道路旅客運送）
- 運賃改定により売上は増加した。（道路旅客運送）
- 倉庫に関しては今期輸入米の入庫があった事で売上額が増加となったが、貨物輸送の部門でドライバー退職後の穴埋めが出来ず、人員不足による機動力不足により売上が大幅減となった。（道路貨物運送）
- 人件費、燃料費、車両代、修理代、タイヤ代、輸送資材、フェリー代、外注費などすべてのものが大幅に上がっているが 運賃がそれに追いついていない。（道路貨物運送）
- 灯油は前年比8%、車両も180万円値上りしているので、零細企業にとって厳しい。（道路貨物運送）
- 仕入価格は大幅に上昇しているものの、売上高は増えている。（道路貨物運送）
- 新幹線関係工事による運搬量の増加。（道路貨物運送）
- 天候や定期検査による運航便数により売上は減少 燃料価格は政府の補助金でほぼ前年と同じ。（水運）
- 前期のメインカーゴ（砂糖）の取扱量減少が、今期の売上減少に影響を及ぼしている。（倉庫）
- 春時期に入庫予定の貨物が前通しで入庫されたため一時的に増加した。（倉庫）
- 売上額は横ばいである。（倉庫）

[来期の業況について]

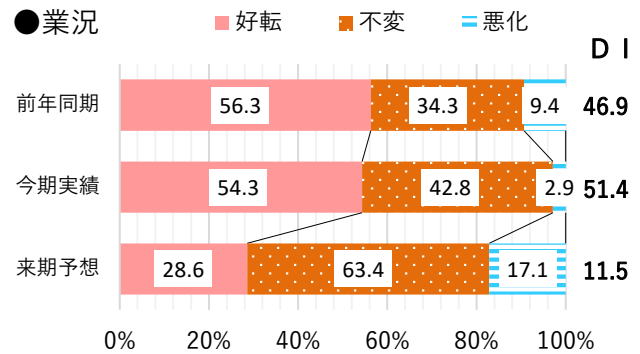
- 運賃単価の上昇（企業物価の上昇により利益確保は厳しい）。（道路旅客運送）
- 運賃改定により売上は増加予定。（道路旅客運送）
- 人員の確保に重点を置く事で機動力の確保が重要となるが募集に対しての反応が悪く、このままでは貨物運送部門の売上減が見込まれる。（道路貨物運送）
- 人材確保維持のため、賃金アップを見込んでいるが、交渉による売上高増を見込む。（道路貨物運送）
- 新幹線関係以外にも大型案件が始動予定。（道路貨物運送）
- 今期と比べると、荷動き・旅行需要増により売上増を予想。人材は新入社員の入社で増員となる。（水運）
- 大きな変動はないと思われる。（倉庫）
- 砂糖の取扱量に左右される。（倉庫）

観光業

業況、売上、採算

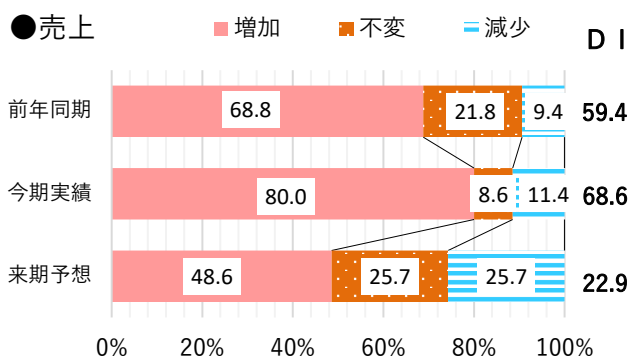
今期（2025.1～3）の業況判断DIは51.4で、前年同期（2024.1～3）と比べ4.5ポイント上昇しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは39.9ポイントと大幅に低下すると予想しています。



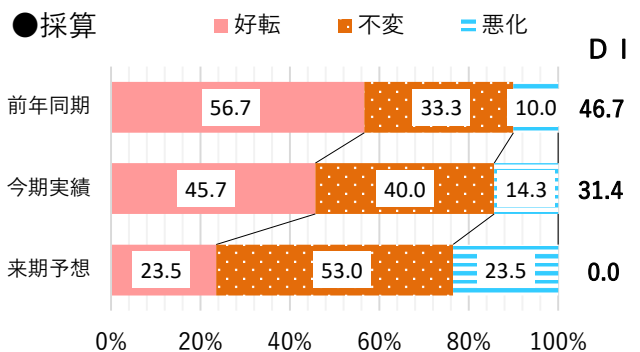
今期の売上DIは68.6で、前年同期と比べ9.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは22.9ポイントと大幅に低下すると予想しています。

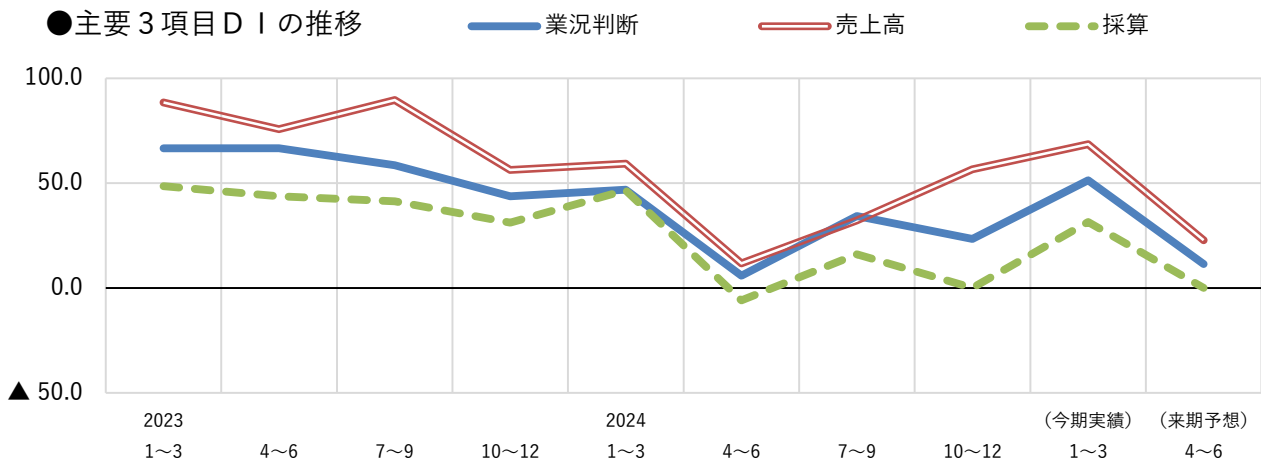


今期の採算DIは31.4で、前年同期と比べ15.3ポイント低下しました。

来期の採算DIは0.0ポイントと大幅に低下すると予想しています。



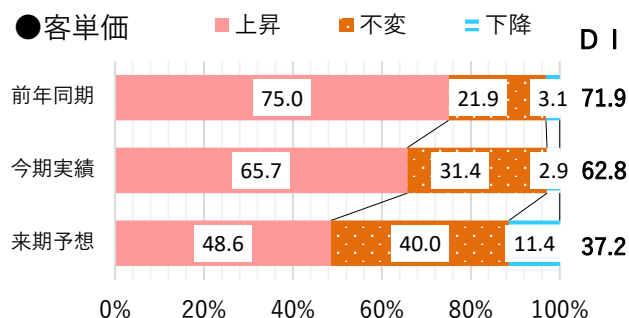
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

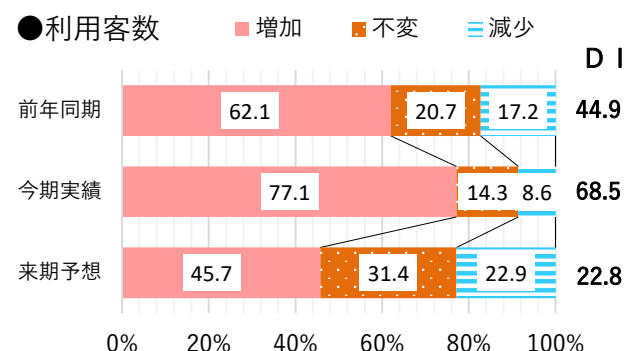
今期の客単価DIは62.8で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期の客単価DIは25.6ポイント低下すると予想しています。



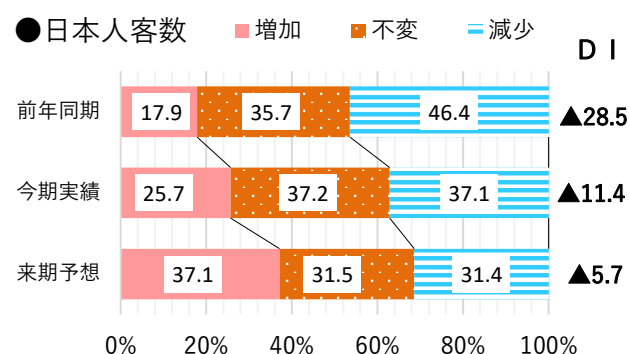
今期の利用客数DIは68.5で、前年同期と比べ23.6ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは45.7ポイントと大幅に低下すると予想しています。



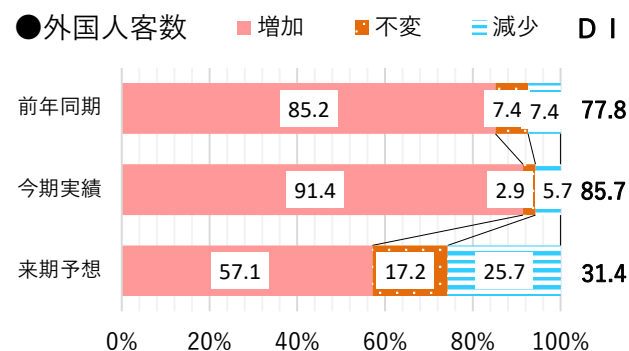
今期の日本人客数DIは▲11.4で、前年同期と比べ17.1ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは5.7ポイント上昇しますが、マイナス水準が継続すると予想しています。



今期の外国人客数DIは85.7で、前年同期と比べ7.9ポイント上昇しました。

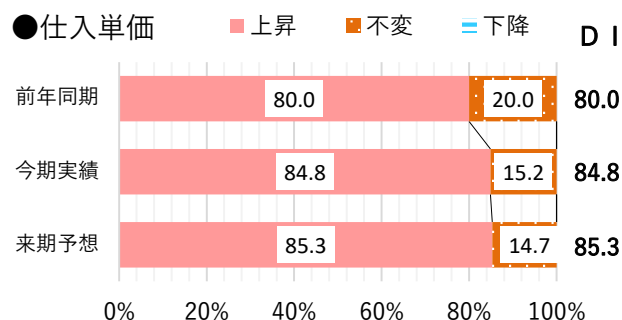
来期の外国人客数DIは54.3ポイントと大幅に低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは84.8で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

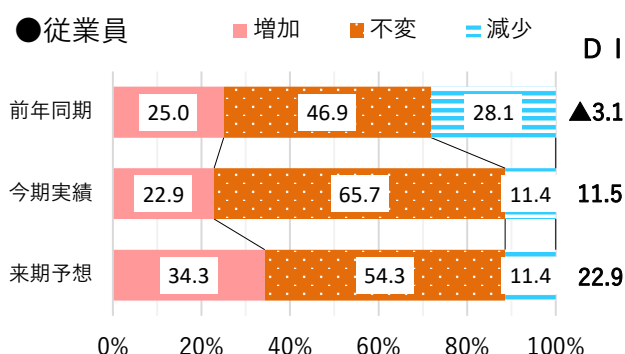
来期の仕入単価DIは0.5ポイント上昇し、横ばいに推移すると予想しています。



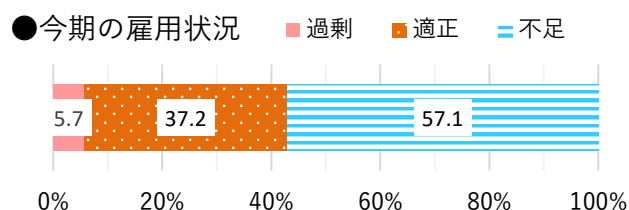
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは11.5で、前年同期と比べ14.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期の従業員DIは11.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.7%、適正であると回答した企業の割合は37.2%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



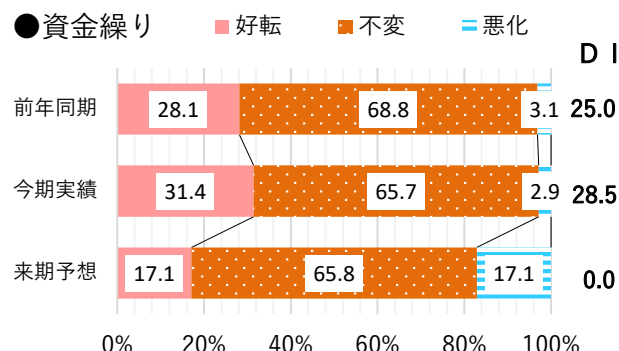
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、34.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	5
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	12
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

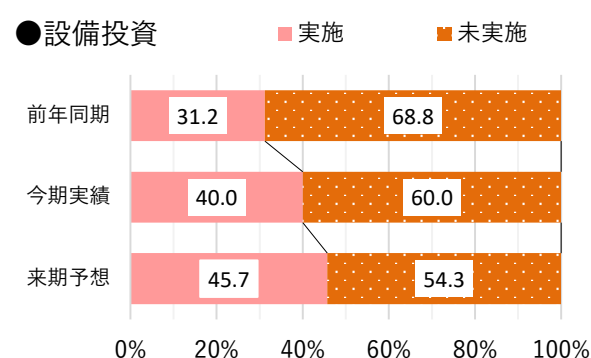
今期の資金繰りDIは28.5で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは28.5ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は40.0%が実施と回答し、前年同期と比べて8.8%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）の順です。

来期は45.7%が設備投資を計画していると回答しています。

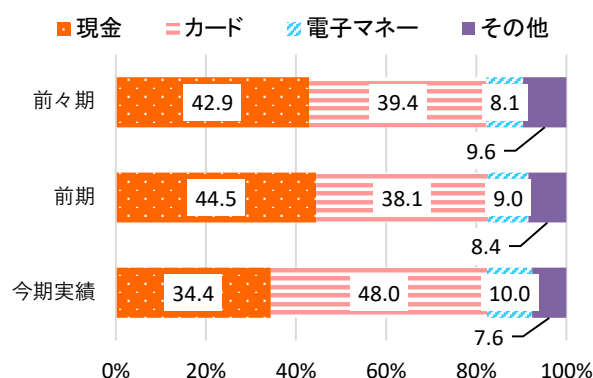


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで48.0%、2位が現金で34.4%、3位が電子マネーで10.0%、4位がその他で7.6%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、ポイント決済、オンライン決済（d払い、paypay等）、バーコード決済の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

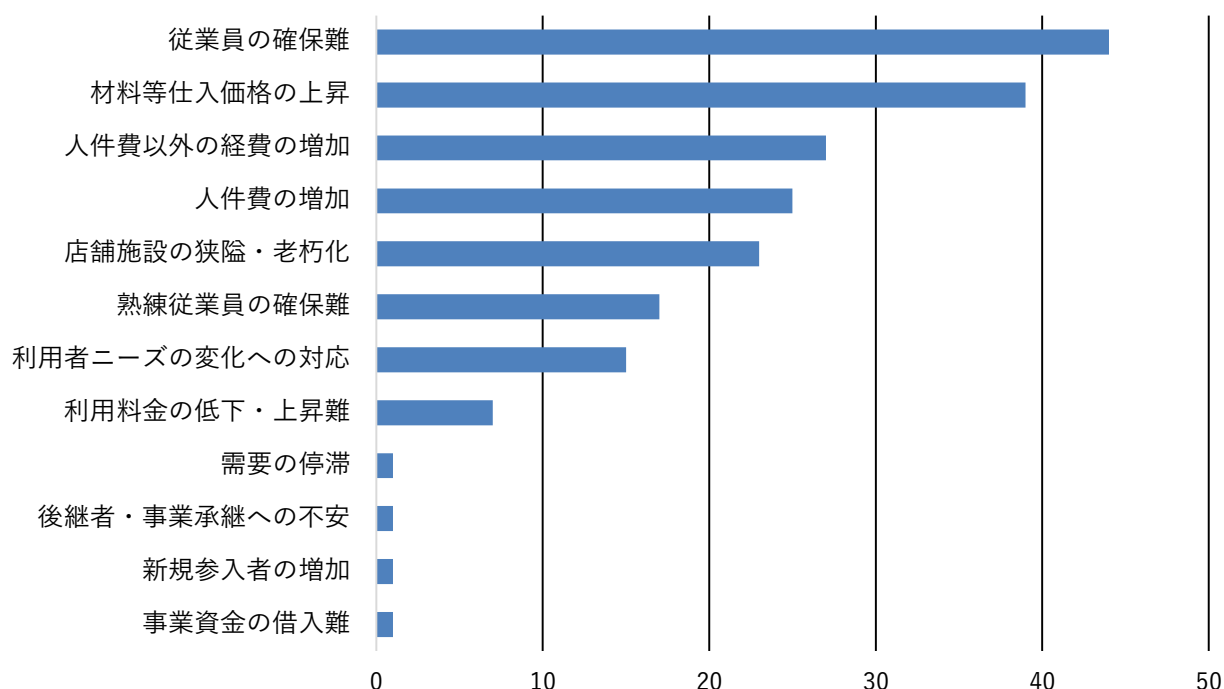


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は66.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 1～2月はインバウンドが多かったが、3月からは日本人客が増加している。（飲食店）
- インバウンドが急増した。月間売上に対しておよそ半数が免税であった。（飲食店）
- ずっと多忙なのでスタッフの負担が大きい。（飲食店）
- 人材確保以外は好転している。（飲食店）
- 例年、冬期は雪祭り以外、観光客数は減少するが、今年は外国人客が途切れず、前年同期比で微増した。特に米国からの観光客が増加した。日本人客は減少し、購入意欲も低下している。売上高は高価格商品の売行きが良くてやや増加したが、出荷量は減少した。原材料費が変わらず増加しているので、採算面の好転につながっていない。人手不足も売上を増やせない制約要因となっていて、ますます深刻さを増している。（土産品）
- 売上額は増加したが、仕入価格も増加（利幅は不変）。人材確保が難しく、適正人材と教育をしていく。最賃（春闘）の関係で人件費の増加が圧迫する。（土産品）
- インバウンドの増加により、売上が増加した。（土産品）
- 例年に比べ、インバウンドが活況であった。（土産品）
- 店舗の認知拡大と観光客の増加。（土産品）
- インバウンドの利用が増加した。来期も期待できる。（レンタカー）
- 人材確保が出来ず、規模を縮小せざるを得ない。（レンタカー）
- 仕入原価、光熱費、人件費の上昇により現状の経常利益はマイナスの状態にある。（ホテル）
- インバウンドが好調で、長期滞在の傾向がある。（ホテル）
- インバウンドにより売上増加に繋がった。（ホテル）
- 想定以上のインバウンド需要があった。（ホテル）
- 今期の2月は天候不順により、欠航が多く昨年同期に比べ売上が減少した。（水運業）

[来期の業況について]

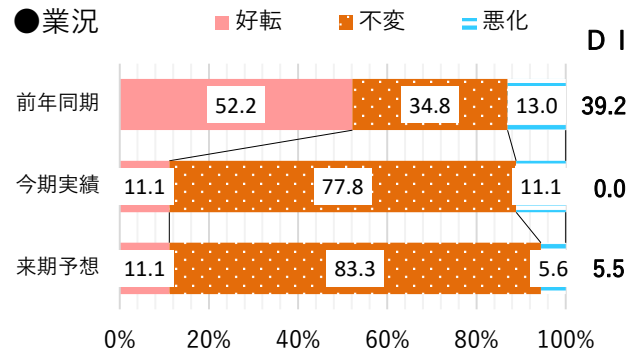
- 人件費、雑費を削減予定。インバウンドの増加が見込まれる。（飲食店）
- 仕入単価、人件費が更に上昇すると思われる。（飲食店）
- 日本の観光客、地元客が増加見込。（飲食店）
- 外国人客増・売上増を見込みたいが、堅調に見て、業況は前年同期と同程度と予想する。原材料の高騰、人件費の増加などが確定的で、採算面は厳しくなると予想している。従業員の確保に努力しているが、人件費の高騰も深刻である。外国人従業員の確保など全市的な取り組みを切に望む。（土産品）
- 1～2月はオーバーツーリズムと報道があったようにインバウンドが多かった。3月からは通常に戻っているので一時的なものであった。（土産品）
- 4～6月は通常どおりか物価高の影響で、楽観はできないと思う。（土産品）
- 冬期イベントの終了、オフシーズン入りにより業況は悪化する。（土産品）
- 店舗の認知拡大と観光客の増加。（土産品）
- 人材確保が出来ず、規模を縮小せざるを得ない。（レンタカー）
- 今期と同様であるが、期間（閑散期）対応として経費削減を予定している。（ホテル）
- 仕入原価、光熱費、人件費の上昇による経常利益のマイナスが続く。（ホテル）
- インバウンド利用が増加しているが、日本人利用が減少している。（ホテル）
- 今期と比較するとインバウンドのピークが過ぎて減少する見込。（ホテル）
- 大きな需要変動はなく、仕入れは更に高騰してくる予想する。（ホテル）
- インバウンドが好調で、長期滞在の傾向がある。（ホテル）
- 4～6月は、客数、売上とも増加が見込まれる。（水運業）
- 新規オープンのレストランの業績が好調であり、それにより一般来場者が増えたが、設備投資に費用がかかったため収益は変わらなかった。（娯楽業）
- 設備の修繕があり、予断を許さない状況である。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

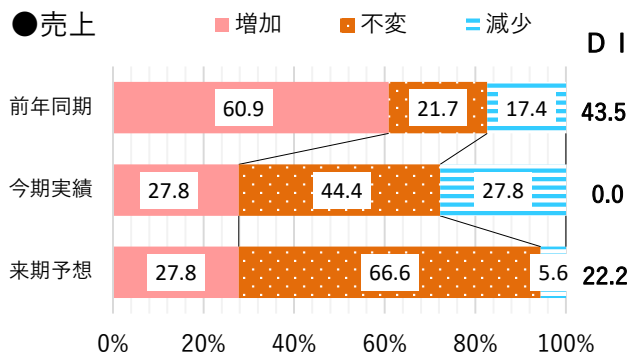
今期（2025.1～3）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2024.1～3）と比べ39.2ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.1～3）の業況DIは5.5ポイント上昇すると予想しています。



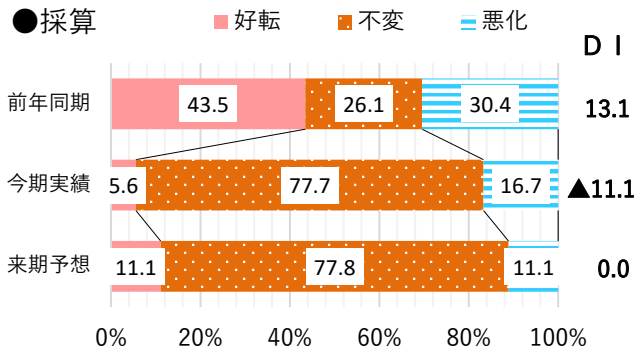
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ43.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは22.2ポイント上昇すると予想しています。

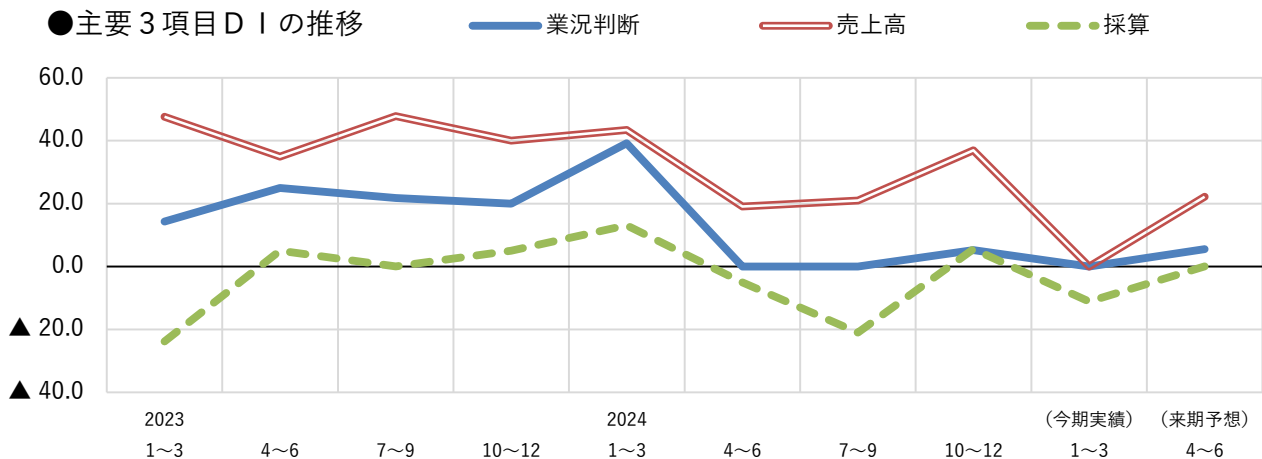


今期の採算DIは▲11.1で、前年同期と比べ24.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の採算DIは11.1ポイント上昇すると予想しています。



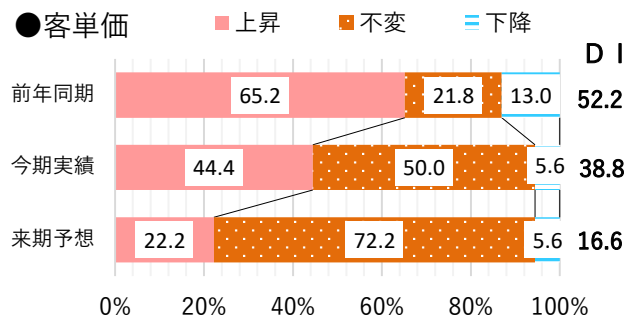
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、仕入単価

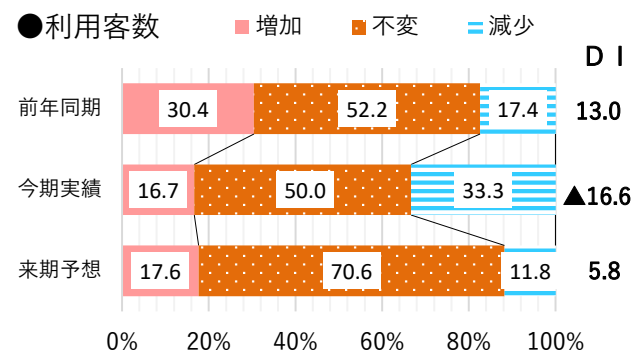
今期の客単価DIは38.8で、前年同期と比べ13.4ポイント低下しました。

来期の客単価DIは22.2ポイント低下すると予想しています。



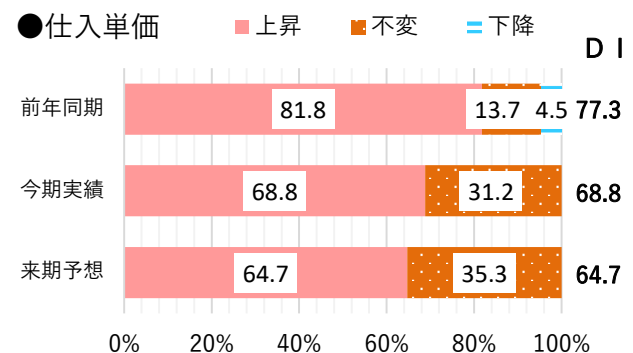
今期の利用客数DIは▲16.6で、前年同期と比べ29.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の利用客数DIは22.4ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは68.8で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

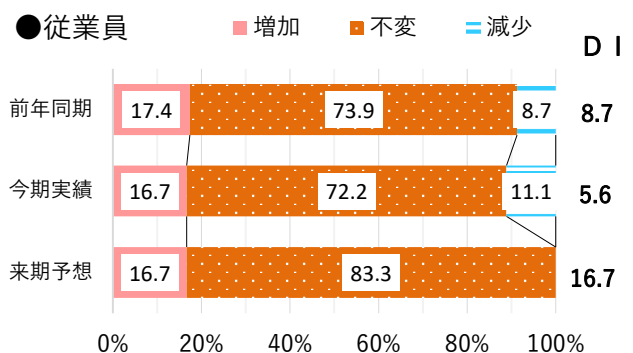
来期の仕入単価DIは4.1ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.6で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

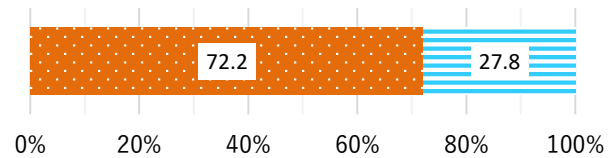
来期の従業員DIは11.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は72.2%、不足していると回答した企業の割合は27.8%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、55.6%を占めました。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足

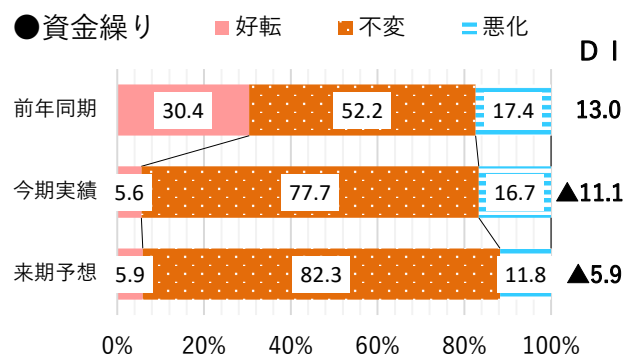


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

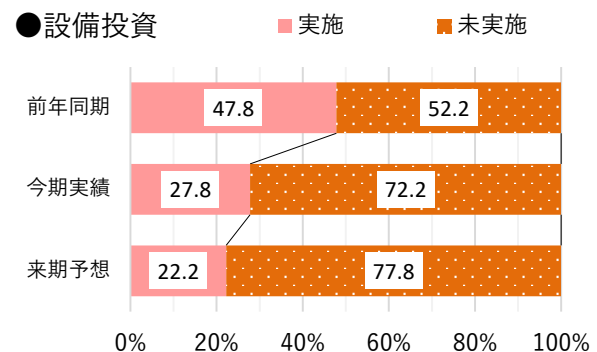
今期の資金繰りDIは▲11.1で、前年同期と比べ24.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の資金繰りDIは5.2ポイント上昇しますが、マイナス水準が継続すると予想しています。



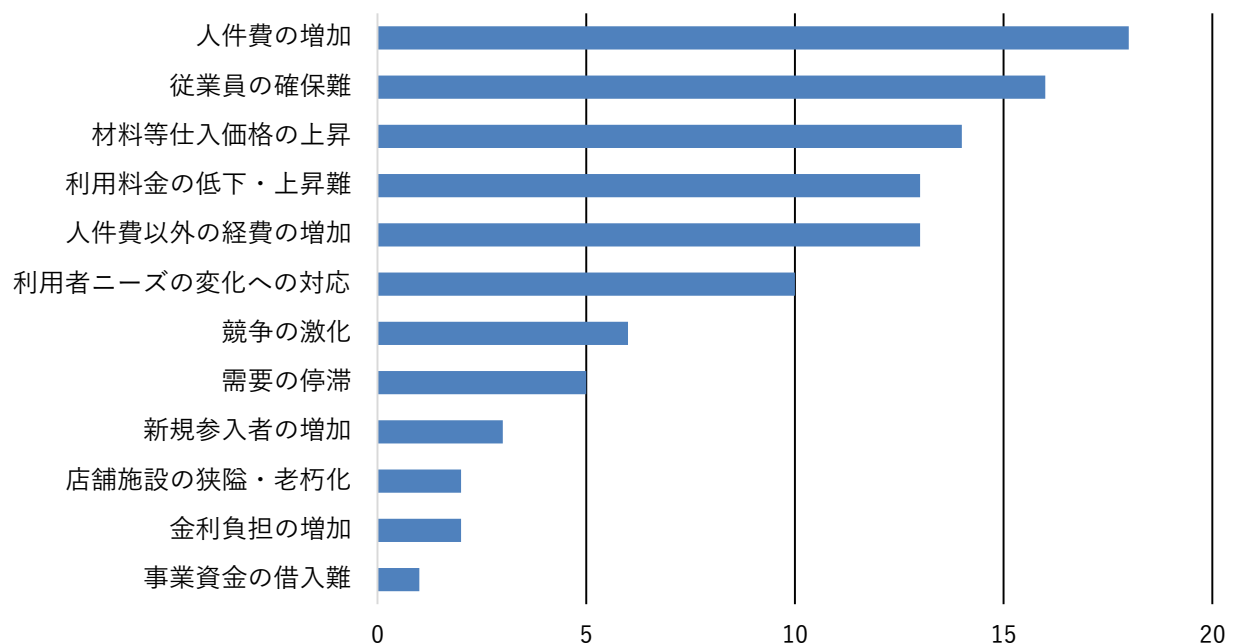
今期の設備投資は27.8%が実施と回答し、前年同期と比べ20.0%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、3位が「土地」、「建物」、「サービス設備」、「付帯設備」（同位）の順です。

来期は22.2%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 相変わらず仕入単価、経費が上昇傾向。地元客がこの時期少なく、外国人が多い傾向。（飲食店）
- 最低賃金や資材費の上昇に合わせ値上をしているので売上は上がっているが、利益上昇に至らず。（ビルメンテナンス）
- 人材の確保が難しく、派遣・紹介会社に頼らざるを得なくなっている。（ビルメンテナンス）
- 物価高騰で仕入価格は値上り、売上高は減少している。（写真業）
- 12月が繁忙期だったので今期は売上、利用客数が減少した。仕入価格も仕入れする度に上がっている。（美容業）
- 前期と大きな変化はないが、近隣町村が活況に感じる。（不動産代理・仲介業）

[来期の業況について]

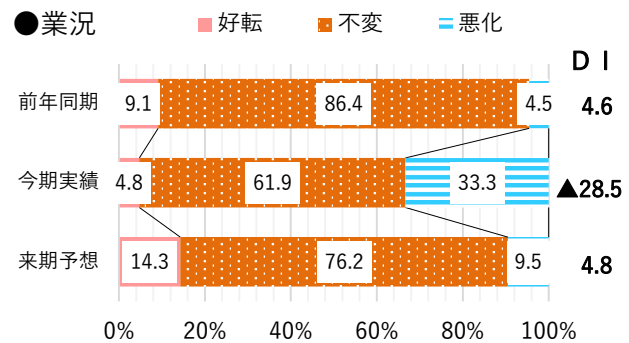
- 来客数は減少するが値上げしたため、売上は維持できると思われる。これ以上値上げすると市内のお客様が離れる心配がある。（飲食店）
- 相変わらず仕入単価、経費が上昇傾向。地元客がこの時期少なく、外国人が多い傾向。（飲食店）
- 来期も最低賃金や資材費の上昇に合わせ値上をするが、利益率の好転するには至らない。（ビルメンテナンス）
- 多少の余剰人員を確保しておくか、パートの延長（フルタイム）を検討していく。（ビルメンテナンス）
- 客数、客単価ともに減少し、中々売上高の上昇は見込めない。（写真業）
- 1年の中でもコンスタントに来客数が安定している時期なので売上、客数共に増加すると思う。仕入価格は上がり、人材確保は今を維持していく予定。（美容業）
- 市内のお客様が減少しているように感じる。（不動産代理・仲介業）

建設業

業況、売上、採算

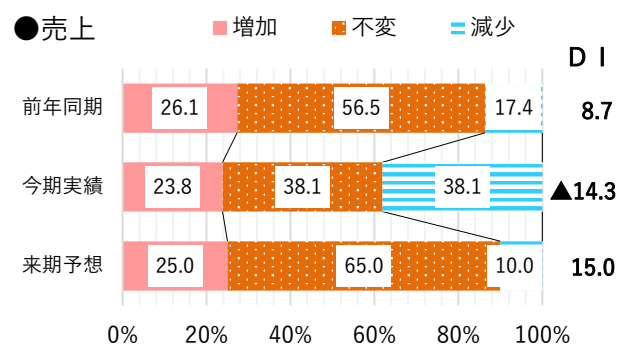
今期（2025.1～3）の業況判断DIは▲28.5で、前年同期（2024.1～3）と比べ33.1ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは33.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。



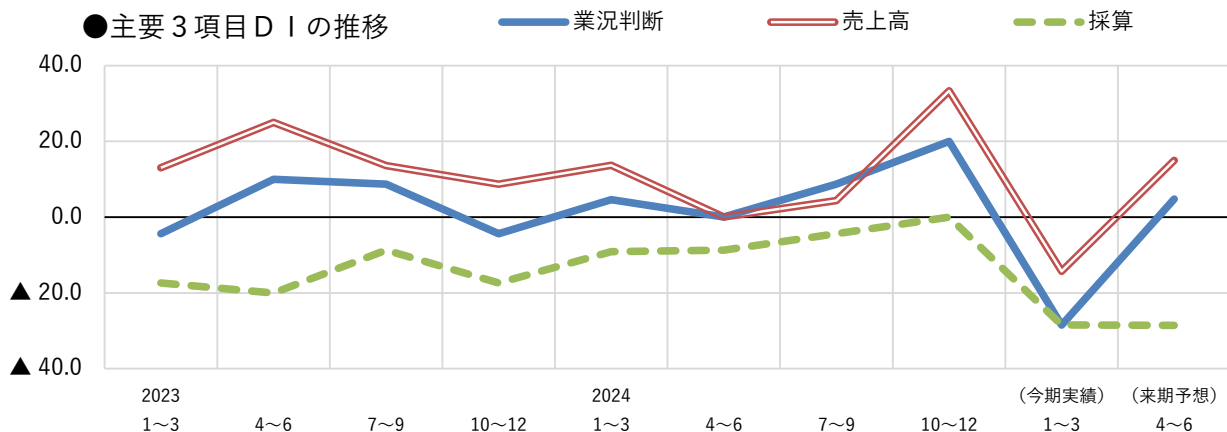
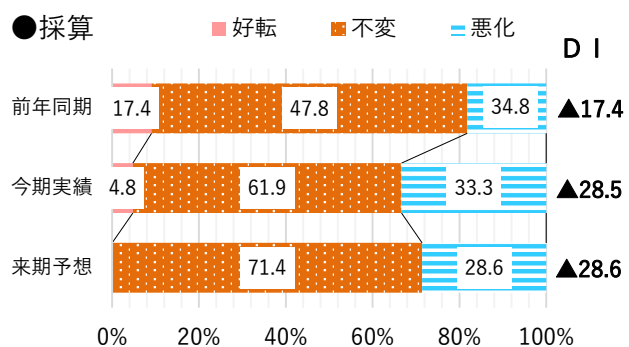
今期の売上高DIは▲14.3で、前年同期と比べ23.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の売上DIは29.3ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



今期の採算DIは▲28.5で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

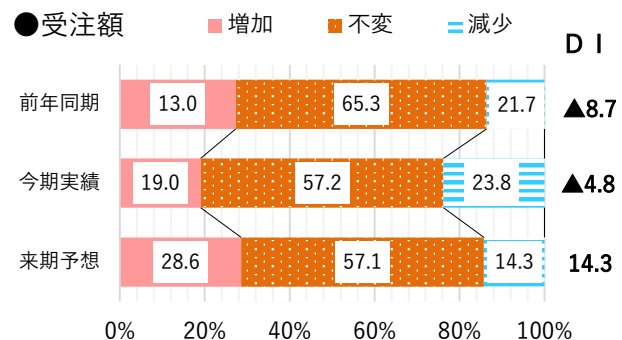
来期の採算DIは0.1ポイント低下し、ほぼ横ばいに推移すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

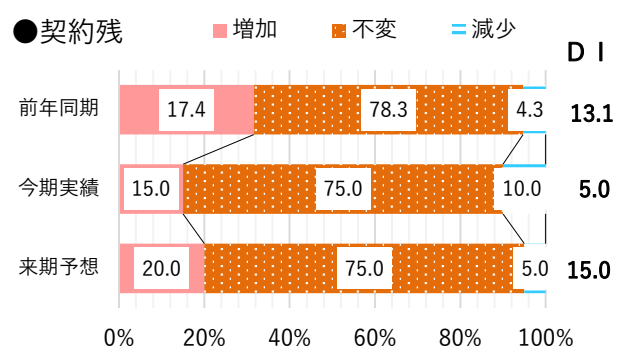
今期の受注額DIは▲4.8で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期の受注額DIは19.1ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



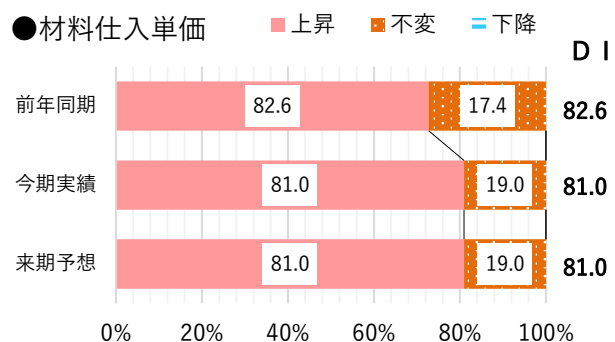
今期の契約残DIは5.0で、前年同期と比べ8.1ポイント低下しました。

来期の契約残DIは10.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは81.0で、前年同期と比べ1.6ポイント低下しました。

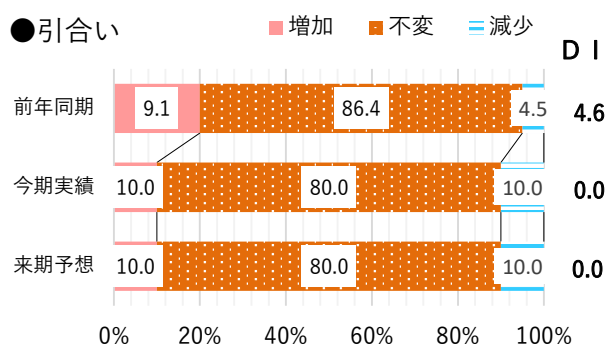
来期の材料仕入単価DIは変化がなく、横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

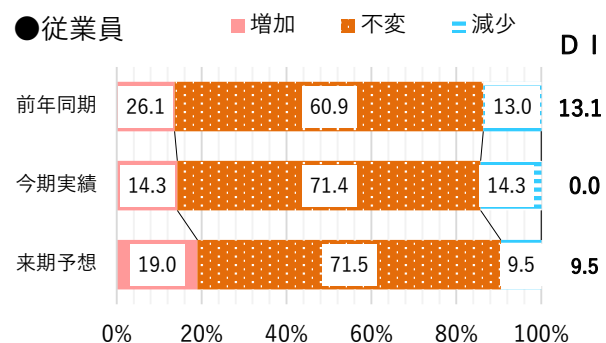
来期の引合いDIは変化がなく、横ばいを予想しています。



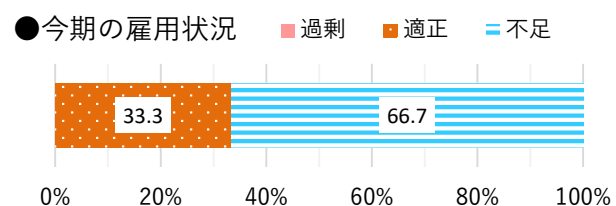
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ13.1ポイント低下しました。

来期の従業員DIは9.5ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



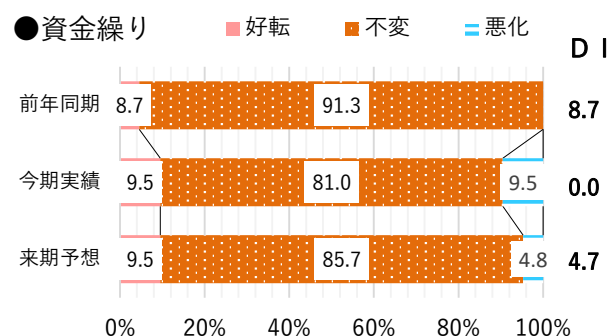
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、38.1%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

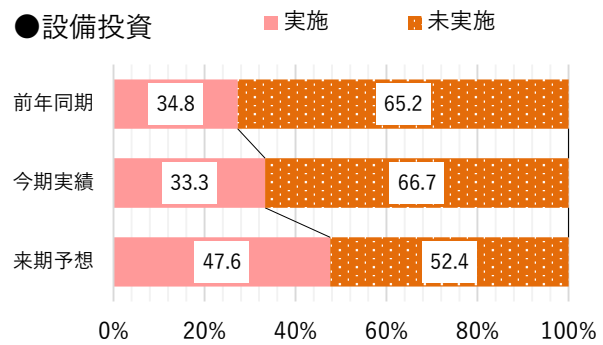
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは4.7ポイント上昇すると予想しています。



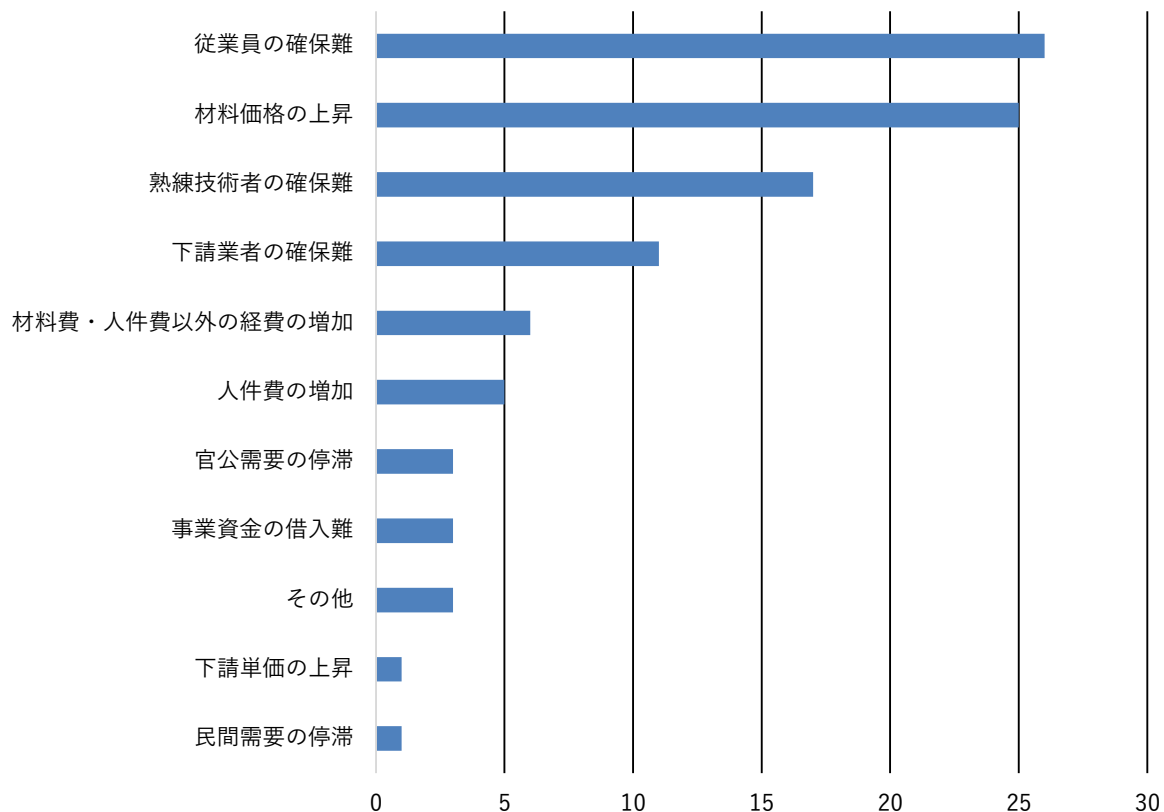
今期の設備投資は33.3%が実施と回答し、前年同期と比べ1.5%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、
「OA機器」（同位）、3位が「建設機械」の順です。

来期は47.6%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 工事の予定が安定せず、大変な思いをしている。（一般土木工事業）
- 売上額は上昇したが仕入価格の上昇により微増。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題。（一般土木工事業）
- 1月～3月の間は仕事がなかった。（職別工事業）
- もともとこの時期は仕事が少ない時期である。（造園業）

■売上金額は上昇傾向にあるが物価高騰により利益が出ない。（電気工事業）

[来期の業況について]

■人材確保については4月から入社予定ありだが人材不足。（一般土木工事業）

■人材不足が課題。（一般土木工事業）

■現場作業が始まるため売上増加見込。（造園業）

■売上金額は上昇傾向にあるが物価高騰により利益が出ない。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2025年1月～3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は0件、前年同期比減少
負債総額は0円、前年同期比減少

	倒産件数 0件	負債総額 0円
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 2件)	負債 -3億1,700万円 (前年同期 3億1,700万円)
■1月	なし	
■2月	なし	
■3月	なし	

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2025年1月～3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は44件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は27棟26戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数 44件	新設着工住宅戸数 27棟26戸
前年同期比	件数 -8件 (前年同期 52件)	戸数 +12棟+8戸 (前年同期 15棟18戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		